ULIZAプロダクトアカウント

ユーザーガイドv1.3.0

© 2024 PLAY, inc. All Rights Reserved.

はじめに

本書はULIZAプロダクトアカウントの概要および各種設定方法について記述しています。なお、本書に掲載されている図は、実際のものとは異なる場合がありますのでご了承ください。

用語

ここでは本書で使用される主な用語の定義について記述します。

ULIZAプロダクトアカウント

複数のULIZAプロダクトに対して共通で使用可能なアカウントを指します。これには弊社から提供されるマスターアカウントとお客様が登録可能なサブアカウントが含まれます。

ULIZAプロダクト

ULIZAプロダクトアカウントを使用可能な弊社のプロダクトを指します。これにはULIZA VMS (Cloud)、ULIZA En-Cluster (Cloud)、ULIZA Player (Cloud)、ULIZA Video Analytics (Basic)などが含まれます。

マスターアカウント

弊社から提供されるULIZAプロダクトアカウントを指します。サブアカウントの管理権限を持ちます。

サブアカウント

マスターアカウントにより登録されるULIZAプロダクトアカウントを指します。

チームメンバー

ひとつのULIZAプロダクトアカウントを共同で使用する複数の使用者を指します。チームメンバーはそれぞれ自分だけの認証情報（パスワードなど）を使用して管理画面にログインします。

概要

本章では、ULIZAプロダクトアカウントの概要について記述しています。

ULIZAプロダクトアカウント

ULIZAプロダクトアカウントにはマスターアカウントとサブアカウントがあります。マスターアカウントは、それ自体でULIZAプロダクトを使用可能なことに加えて、登録したすべてのサブアカウントのデータを取得したり更新したりすることができます（サブアカウントに切り替えるを参照）。一方で、サブアカウントが別のサブアカウントやマスターアカウントのデータを取得したり更新したりすることはできません。ただし、サブアカウントが別のサブアカウントのデータを取得したり更新したりすることを許可することもできます。

ULIZAプロダクトアカウントはそれぞれ以下に示す属性を持ちます。

属性名	変更可能	説明
ログインID	×	各ULIZAプロダクトの管理画面にログインする際に使用します。
パスワード	○	各ULIZAプロダクトの管理画面にログインする際に使用します。
名前	△（※1）	アカウントの名前です。
説明	△（※1）	アカウントの説明（省略可能）です。
状態	△（※1）	アカウントの状態です。状態には以下の種類があります。 **提供中**：各ULIZAプロダクトを使用可能な状態です。 **停止中**：各ULIZAプロダクトを使用できない（管理画面へのログインができない）状態です。
API認証キー	○	アカウントがULIZAプロダクトのWeb APIを使用する際に必要なキーです。登録可能なAPI認証キーの個数はアカウントにより異なります。使用方法については、各ULIZAプロダクトのAPI仕様書を参照してください。
操作権限	△（※1）	使用可能なULIZAプロダクトの種類や、各ULIZAプロダクトにおいてアカウントが実行可能な操作権限に関する設定です。マスターアカウントが持たない操作権限をサブアカウントが持つことは許可されません。
サービス利用制限	△（※2）	各ULIZAプロダクトにおいてアカウントが管理できる要素に対する制限です。現在の制限は基本情報画面で確認できます。

※1： 変更対象がサブアカウントである場合は、当該アカウントを登録したマスターアカウントから変更することができます。変更対象がマスターアカウントである場合は、弊社にお問い合わせください。

※2： 変更する必要がある場合は、弊社にお問い合わせください。

チーム機能

ひとつのULIZAプロダクトアカウントを複数の使用者が共同で使用している場合は、チーム機能を使用することで、使用者（チームメンバー）間でパスワードなどの認証情報を共有する必要がなくなるほか、使用者ごとに操作権限を細かく制御でき、運用上のセキュリティを向上させることができます。

チーム機能を使用するには使用者ごとにチームメンバーを作成します。チームメンバーはULIZAプロダクトアカウントごとに最大100個まで作成可能です。チームメンバーは以下に示す属性を持ち、これらはいずれもチームメンバーごとに異なる値を設定することができます。

属性名	変更可能	説明
メンバー名	×	各ULIZAプロダクトの管理画面にログインする際に使用します。
パスワード	○	各ULIZAプロダクトの管理画面にログインする際に使用します。
説明	○	チームメンバーの説明（省略可能）です。
API認証キー	○	チームメンバーがULIZAプロダクトのWeb APIを使用する際に必要なキーです。使用方法については、各ULIZAプロダクトのAPI仕様書を参照してください。
操作権限	○	使用可能なULIZAプロダクトの種類や、各ULIZAプロダクトにおいてチームメンバーが実行可能な操作権限に関する設定です。

ワンタイムパスワードによる2段階認証

ULIZAプロダクトアカウントはTOTP（Time-based One-Time Password）標準規格に準拠した2段階認証をサポートしています。2段階認証を有効化すると、ログイン時に「ログインID」と「パスワード」（チームメンバーとしてログインする場合は「メンバー名」も含む）に加えて、時間経過とともに変化する6桁の認証コードが必要になります。チーム機能を使用している場合は、チームメンバーごとに2段階認証の有効/無効を設定でき、ログイン時に必要な認証コードもチームメンバーごとに異なる値になります。

認証コードはTOTP標準規格をサポートするスマートフォンアプリなどを使用して生成できます。実際の設定方法については2段階認証を有効化/無効化するを参照してください。なお、動作確認済みのアプリは以下の通りです。

- Google Authenticator (Android/iOS)
- Microsoft Authenticator (Android/iOS)
- IIJ SmartKey (Android/iOS)

IPアドレス制限

必要に応じて管理画面へのログインにIPアドレス制限を設定できます。IPアドレス制限を設定すると、あらかじめ許可されたIPアドレス以外からは管理画面にログインできなくなります。チーム機能を使用している場合は、チームメンバーごとに異なるIPアドレスを設定できます。なお、この制限はAPI認証キーを使用したWeb APIリクエストには適用されません。実際の設定方法についてはIPアドレス制限を設定するを参照してください。

アカウント設定画面の使い方

本章では、ULIZAプロダクトアカウントの設定画面の操作方法について説明します。なお、設定画面はPCのGoogle Chromeでの操作を推奨します。画面解像度は1280x720ピクセル以上を推奨します。

ログインする

弊社より案内する情報に従い認証情報を入力し、「ログイン」ボタンをクリックしてください。

アカウント設定画面を表示する

ログインに成功すると各ULIZAプロダクトの管理画面に遷移します。アカウント設定画面に遷移するには、画面右上のログインIDをクリックすると表示されるメニューから「アカウント設定」をクリックします。

現在の設定内容を表示する

アカウント設定画面に遷移すると最初に「基本情報画面」が表示されます。ここでは、アカウントの基本情報やサービス利用制限の確認、パスワードの変更などを行うことができます。

パスワードを変更する

基本情報画面で「パスワードの変更」ボタンをクリックすると、「パスワードの変更」ダイアログが表示されます。現在ログインしているULIZAプロダクトアカウントのパスワードと、新しく設定するパスワードを入力し、「保存」ボタンをクリックするとパスワードが変更されます。なお、新しいパスワードは次回ログイン時から有効になります。

2段階認証を有効化/無効化する

基本情報画面で「2段階認証の有効化」ボタンをクリックすると、「2段階認証の有効化」ダイアログが表示されます。表示されたQRコードをTOTP（Time-based One-Time Password）標準規格に対応したスマートフォンアプリなどで読み取り、生成された6桁の認証コードを入力し、「有効化」ボタンをクリックすると2段階認証が有効化されます。既に2段階認証が有効な場合は、「2段階認証の無効化」ボタンをクリックすることで、2段階認証が無効化されます。

IPアドレス制限を設定する

基本情報画面で「IPアドレス制限設定」ボタンをクリックすると、「IPアドレス制限設定」ダイアログが表示されます。IPアドレス制限を使用するには、「IPアドレス制限を使用する」にチェックを入れ、ログイン許可IPアドレスを入力し、「保存」ボタンをクリックします。

API認証キーを管理する

サイドバーから「API認証キーの管理」（API認証キーの取得権限がある場合のみ表示されます）をクリックすると、API認証キー管理画面に遷移します。API認証キー管理画面の構成は以下の通りです。

① API認証キーリスト

登録済みAPI認証キーが一覧表示されます。

② API認証キーの検索

ここにキーワードを入力すると、そのキーワードを名前に含むAPI認証キーのみがAPI認証キーリストに表示されます。

③ API認証キーの登録

このボタンをクリックすると、「API認証キーの登録」ダイアログが表示されます。名前を30文字以内で入力して「登録」ボタンをクリックすると、 API認証キーが登録されます。なお、名前は半角英数字、ハイフンおよびアンダースコアのみ使用可能で、既に登録されている名前は使用できません。

④ クリップボードにコピー

このアイコンをクリックすると、選択したAPI認証キーがクリップボードにコピーされます。

⑤ API認証キーの削除

このアイコンをクリックすると、「API認証キーの削除」ダイアログが表示されます。「削除」ボタンをクリックすると、選択したAPI認証キーが削除されます。なお、 API認証キーの削除がシステムに反映されるまで数分かかる場合があります。

チームメンバーを管理する

サイドバーから「チームメンバーの管理」（チームメンバーの取得権限がある場合のみ表示されます）をクリックすると、チームメンバー管理画面に遷移します。チームメンバー管理画面の構成は以下の通りです。

① チームメンバーリスト

登録済みチームメンバーが一覧表示されます。各列は以下を表します。

列名	説明
メンバー名	チームメンバーのメンバー名を表します。
説明	チームメンバーの説明を表します。
最終ログイン	チームメンバーが各ULIZAプロダクトの管理画面に最後にログインを行った日時を表します。
最終更新日時	チームメンバーの設定が最後に更新された日時を表します。
登録日時	チームメンバーが登録された日時を表します。

② チームメンバーの検索

ここにキーワードを入力すると、そのキーワードをメンバー名または説明に含むチームメンバーのみがチームメンバーリストに表示されます。

③ チームメンバーの登録

このボタンをクリックするとチームメンバー設定画面に遷移し、チームメンバーの登録を行うことができます。

④ チームメンバーの編集

このアイコンをクリックするとチームメンバー設定画面に遷移し、選択したチームメンバーの更新を行うことができます。

⑤ チームメンバーの削除

このアイコンをクリックすると「チームメンバーの削除」ダイアログが表示されます。「削除」ボタンをクリックすると、選択したチームメンバーが削除され、以後そのチームメンバーはログインできなくなります。

チームメンバーを登録/更新する

サイドバーから「チームメンバーの登録」をクリックするか、チームメンバー管理画面の「チームメンバーの登録」ボタンまたは任意のチームメンバーの「編集」アイコンをクリックすると、チームメンバー設定画面に遷移します。チームメンバー設定画面は以下のセクションから構成されます。

- 「基本情報」セクション
- 「権限設定」セクション

「基本情報」セクション

チームメンバーに関する基本的な設定を行います。以下の設定項目があります。

設定項目	説明
メンバー名	ログインに使用するメンバー名を100文字以内で指定します。半角英数字、ピリオド、ハイフンおよびアンダースコアのみ使用可能です。また、既に登録されているメンバー名は使用できません。
パスワード	ログインに使用するパスワードを8文字以上30文字以内で指定します。ただし、全角文字や半角スペースを使用することはできません。英大文字、英小文字、数字をそれぞれ1文字ずつ含む必要があります。
説明	チームメンバーの説明を150文字以内で指定します（省略可能）。この説明は使用者の基本情報画面には表示されません。

「権限設定」セクション

各ULIZAプロダクトにおいてチームメンバーが実行可能な操作を選択します。ただし、自分が持たない操作権限をチームメンバーに付与することはできません。各権限の詳細についてはこちらを参照してください。

サブアカウントを管理する

マスターアカウントは、複数のサブアカウントを管理および登録することができます。マスターアカウントでログインした状態で、サイドバーから「サブアカウントの管理」をクリックすると、サブアカウント管理画面に遷移します。サブアカウント管理画面の構成は以下の通りです。

① サブアカウントリスト

登録済みサブアカウントが一覧表示されます。各列は以下を表します。

列名	説明
状態	アカウントの状態を表します。
ログインID	アカウントのログインIDを表します。
名前	アカウントの名前を表します。
説明	アカウントの説明を表します。

列名	説明
最終ログイン	アカウントが各ULIZAプロダクトの管理画面に最後にログインを行った日時を表します。アカウントのチームメンバーがログインすることでも更新されます。なお、「サブアカウントに切り替え」機能によるログインでは、最終ログイン日時は更新されません。
最終更新日時	アカウントの設定が最後に更新された日時を表します。
登録日時	アカウントが登録された日時を表します。

② サブアカウントの検索

ここにキーワードを入力すると、そのキーワードをログインID、名前または説明に含むサブアカウントのみがサブアカウントリストに表示されます。

③ サブアカウントの登録

このボタンをクリックするとサブアカウント設定画面に遷移し、サブアカウントの登録を行うことができます。

④ サブアカウントの編集

このアイコンをクリックするとサブアカウント設定画面に遷移し、選択したサブアカウントの更新を行うことができます。

サブアカウントを登録/更新する

マスターアカウントとしてログインした状態で、サイドバーから「サブアカウントの登録」をクリックするか、サブアカウント管理画面の「サブアカウントの登録」ボタンまたは任意のサブアカウントの「編集」アイコンをクリックすると、サブアカウント設定画面に遷移します。サブアカウント設定画面は以下のセクションから構成されます。

- 「基本情報」セクション
- 「権限設定」セクション

「基本情報」セクション

サブアカウントに関する基本的な設定を行います。以下の設定項目があります。

設定項目	説明
ログインID	ログインに使用するIDを30文字以内で指定します。ただし、「@」に続く文字列を自由に指定することはできません。半角英数字、ハイフンおよびアンダースコアのみ使用可能です。また、既に登録されているログインIDは使用できません。

設定項目	説明
パスワード	ログインに使用するパスワードを8文字以上30文字以内で指定します。ただし、全角文字や半角スペースを使用することはできません。英大文字、英小文字、数字をそれぞれ1文字ずつ含む必要があります。
名前	サブアカウントの名前を30文字以内で指定します。この名前は使用者の基本情報画面に表示されます。
説明	サブアカウントの説明を150文字以内で指定します（省略可能）。この説明は使用者の基本情報画面には表示されません。

「権限設定」セクション

各ULIZAプロダクトにおいてアカウントが実行可能な操作を選択します。ただし、マスターアカウントが持たない操作権限をサブアカウントに付与することはできません。すべての権限のうち、大分類「 ULIZAプロダクト共通」に含まれる権限について、以下に詳細を示します（その他の大分類に含まれる権限については、対応するULIZAプロダクトのUser Guideを参照してください）。

小分類	権限	説明
取得系	チームメンバーの取得	登録済みチームメンバーの一覧を取得する操作を許可します。
	サブアカウントの取得（※1）	登録済みサブアカウントの一覧を取得する操作を許可します。また、登録済みサブアカウントに対して「サブアカウントに切り替え」機能を使用することを許可します。
	API認証キーの取得（※2）	登録済みAPI認証キーの一覧を取得する操作を許可します。
登録系	チームメンバーの登録	チームメンバーを登録する操作を許可します。
	サブアカウントの登録（※1）	サブアカウントを登録する操作を許可します。
	API認証キーの登録（※2）	API認証キーを登録する操作を許可します。
更新系	チームメンバーの更新	チームメンバーを更新する操作を許可します。
	サブアカウントの更新（※1）	サブアカウントを更新する操作を許可します。
削除系	チームメンバーの削除	チームメンバーを削除する操作を許可します。
	サブアカウントの削除（※1）	サブアカウントを削除する操作を許可します。
	API認証キーの削除（※2）	API認証キーを削除する操作を許可します。

※1： 意図せず別のアカウントからデータが取得されたり更新されたりすることを防ぐため、通常は別のサブアカウントの管理権限をもつサブアカウントは登録できないよう制限されています。これらの権限を有効化したい場合は、弊社にお問い合わせください。

※2： Web APIオプションの契約がない場合は、これらの権限は選択できなくなっています。これらの権限を有効化したい場合は、弊社にお問い合わせください。

サブアカウントを登録/更新する

設定を終えたら、画面右下の「保存」ボタンをクリックすると、サブアカウントが登録または更新されます。

サブアカウントを無効化/有効化する

サブアカウントを無効化すると、当該アカウントを使用した各ULIZAプロダクトの管理画面へのログインができなくなり、すべてのULIZAプロダクトが使用ができない状態になります。サブアカウントを無効化するには、対象のサブアカウント設定画面に遷移した後、画面左下の「アカウントの無効化」ボタンをクリックします。確認ダイアログが表示されるので、「無効化」ボタンをクリックするとサブアカウントが無効化されます。なお、サブアカウントの無効化がシステムに反映されるまで数分かかる場合があります。

無効化されたサブアカウントを有効化する（サービス利用可能な状態に戻す）には、対象のサブアカウント設定画面に遷移した後、画面左下の「アカウントの有効化」ボタンをクリックします。確認ダイアログが表示されるので、「有効化」ボタンをクリックするとサブアカウントが有効化されます。なお、サブアカウントの有効化がシステムに反映されるまで数分かかる場合があります。

サブアカウントを削除する

サブアカウントを削除するには、あらかじめ対象のサブアカウントを無効化しておく必要があります。その後、対象のサブアカウント設定画面に遷移し、画面左下の「アカウントの削除」ボタンをクリックします。確認ダイアログが表示されるので、対象のサブアカウントのログインIDを入力して「削除」ボタンをクリックするとサブアカウントが削除されます。なお、サブアカウントの削除がシステムに反映されるまで数分かかる場合があります。

ログアウトする

画面右上のログインIDをクリックすると表示されるメニューから「ログアウト」をクリックすると、アカウント設定画面からログアウトし、ログイン画面に遷移します。

サブアカウントに切り替える

マスターアカウントは、管理画面からログアウトすることなくサブアカウントとしてログインした状態に切り替えることができます。画面右上のログインIDをクリックすると表示されるメニューから「サブアカウントに切り替え」をクリックすると、「サブアカウントに切り替え」ダイアログが表示されます。切り替え先のサブアカウントを選択して「決定」ボタンをクリックすると、選択したサブアカウントとしてログインした状態に切り替わります。

切り替え元のアカウントに戻る場合は、画面右上のログインIDをクリックすると表示されるメニューから「マスターアカウントに戻る」をクリックすると、切り替え元のアカウントでログインした状態に戻ります。

Player (Cloud)
マルチデバイスメディアプレイヤー
Video Analytics (Basic)
視聴動向分析ソリューション
sales@uliza
sales@uliza に切り替え中
マスターアカウントに戻る
検索
詳細
登録日時
表示するデータがありません。

SAML認証

本章では、ULIZAプロダクトアカウントのSAML認証について説明します。

概要

SAML（Security Assertion Markup Language）とは、異なるドメイン間で認証情報を共有するための標準仕様です。SAML 2.0に対応したIdentity Provider（以下、IdPといいます）に対し、ULIZAをService Provider（以下、SPといいます）として登録することで、IdPの認証情報を使用したULIZA管理画面へのシングルサインオンが可能になります。

IdPにより認証された使用者は、特定のULIZAプロダクトアカウントにおける一時的なチームメンバーとして振る舞います。ULIZAプロダクトアカウントに事前にチームメンバーを登録しておく必要はありません。

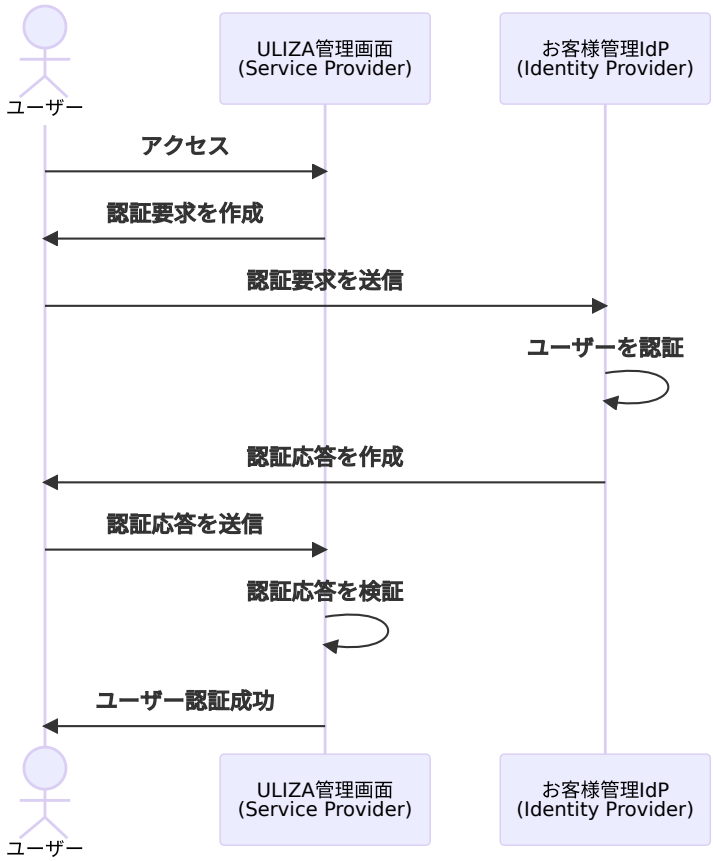
> **補足**
>
> ひとつのULIZAプロダクトアカウントに複数のIdPを関連付けることができます。逆に、ひとつのIdPに複数のULIZAプロダクトアカウントを関連付けることもできます。この場合、ULIZAプロダクトアカウントごとにSP Entity IDが異なるため、IdPに複数のアプリケーションとして登録する（ポータル画面に複数のULIZAアイコンが表示される）形になります。

SAML認証の流れ

ULIZAはSP-initiated SSOとIdP-initiated SSOをサポートします。

SP-initiated SSO

使用者が最初にULIZA管理画面にアクセスすることから始まる認証方式です。以下に基本的なシーケンスを示します。



SP-initiated SSOを行うには、ULIZAログイン画面で「SSOでログイン」をクリックします。

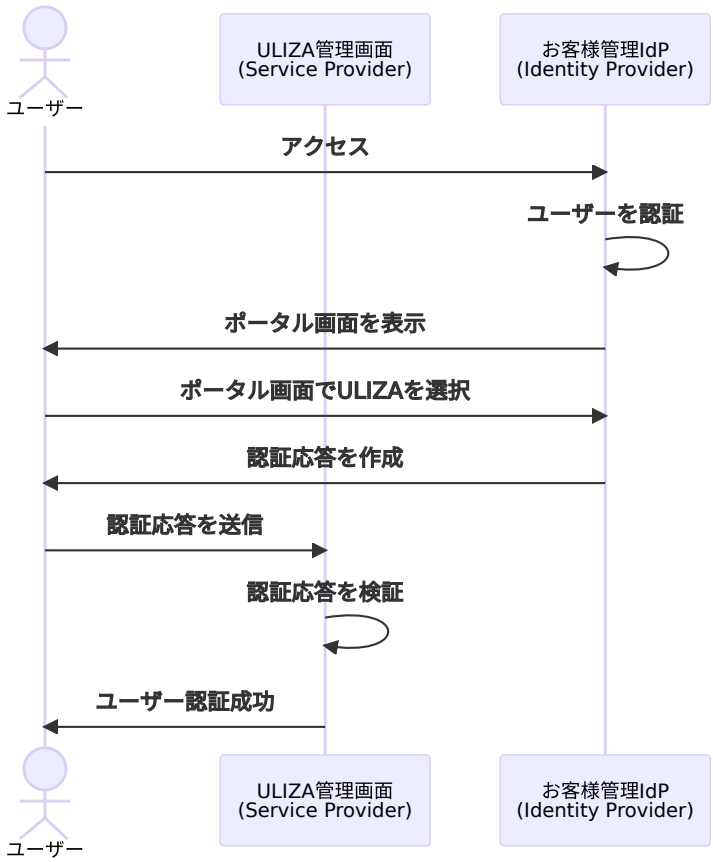
ログインIDを入力して「次へ」ボタンをクリックすると、ULIZA管理画面にログインできます。

補足

指定されたアカウントに複数のIdPが関連付けられている場合は、認証に使用するIdPを選択する画面が表示されます。

IdP-initiated SSO

使用者がIdPが提供するポータル画面を経由してULIZAにログインする認証方式です。以下に基本的なシーケンスを示します。



使用者はIdPが提供するポータル画面でULIZAのアイコンをクリックすることで、ULIZA管理画面にシングルサインオンできます（下図はIdPとしてOktaを利用している場合のダッシュボード画面例）。

SAML認証仕様

認証フロー

ULIZAは以下の認証フローをサポートします。

- SP-initiated SSO
- IdP-initiated SSO

SAMLバインディング

ULIZAは以下のSAMLバインディングをサポートします。

- HTTP POST Binding

Name IDの形式

ULIZAは以下のName IDの形式を要求します。

- urn:oasis:names:tc:SAML:1.1:nameid-format:emailAddress

SAMLリクエストの署名

ULIZAはSAMLリクエストの署名をサポートしません。

SAMLレスポンスの署名

SAMLアサーションには署名が必須です。SAMLレスポンスの署名は任意です。

ダイジェストアルゴリズム

- http://www.w3.org/2000/09/xmldsig#sha1
- http://www.w3.org/2001/04/xmlenc#sha256
- http://www.w3.org/2001/04/xmlenc#sha512

署名検証アルゴリズム

- http://www.w3.org/2000/09/xmldsig#rsa-sha1
- http://www.w3.org/2001/04/xmldsig-more#rsa-sha256
- http://www.w3.org/2001/04/xmldsig-more#rsa-sha512
- http://www.w3.org/2000/09/xmldsig#hmac-sha1

正規化アルゴリズム

- http://www.w3.org/2001/10/xml-exc-c14n#
- http://www.w3.org/2001/10/xml-exc-c14n#WithComments
- http://www.w3.org/2000/09/xmldsig#enveloped-signature

設定方法

SAML認証を設定するには、以下の手順に従います。

1. **SPメタデータを取得する**： ULIZA管理画面からULIZAのSPメタデータを取得します。
2. **IdPにULIZAを登録する**： 取得したメタデータを使用してIdPにULIZAをSPとして登録します。
3. **ULIZAにIdPを登録する**： IdPから取得したメタデータを使用してULIZAにIdPを登録します。

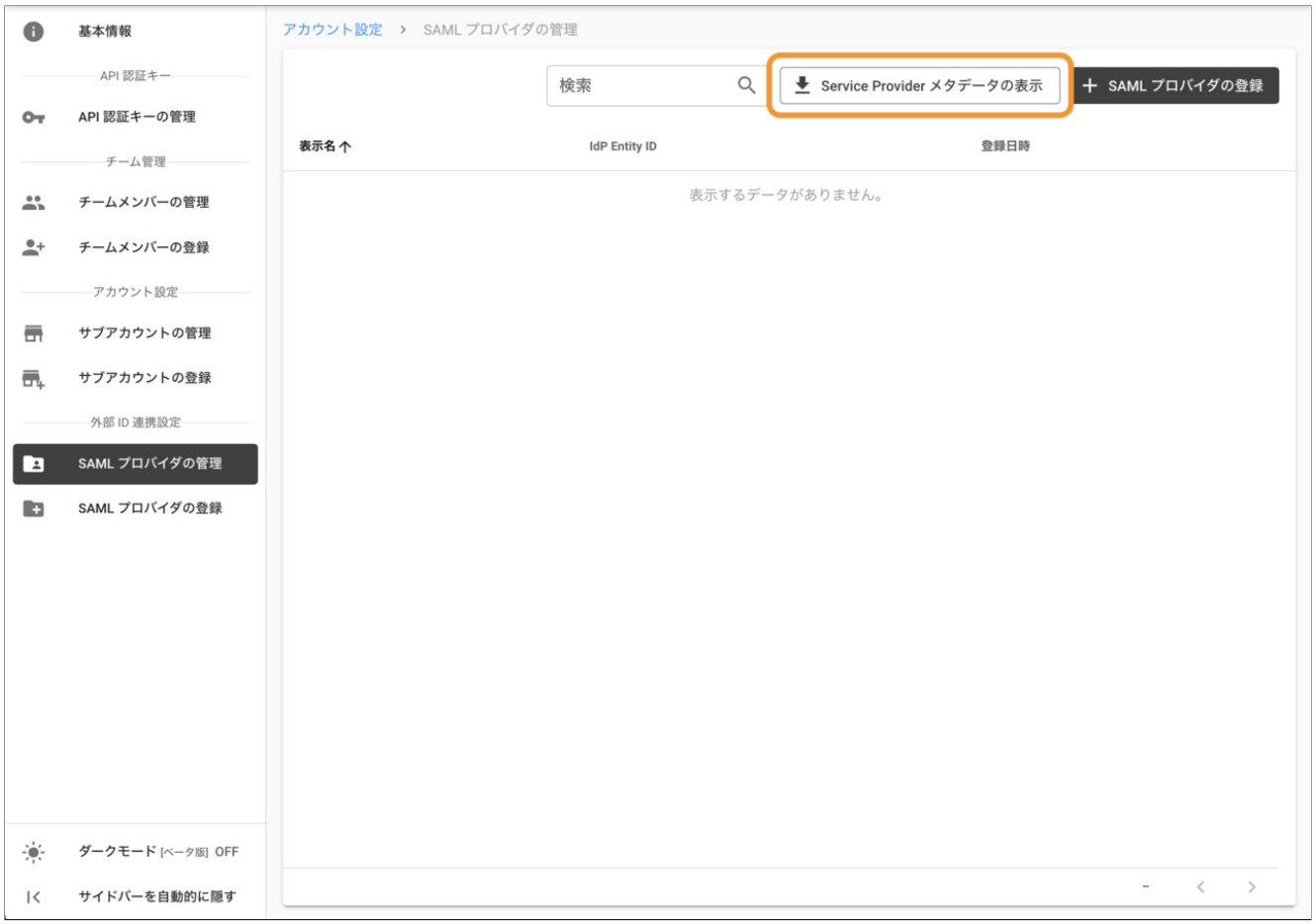
SPメタデータを取得する

1. ULIZAのアカウント設定から「SAMLプロバイダの管理」画面を開きます。

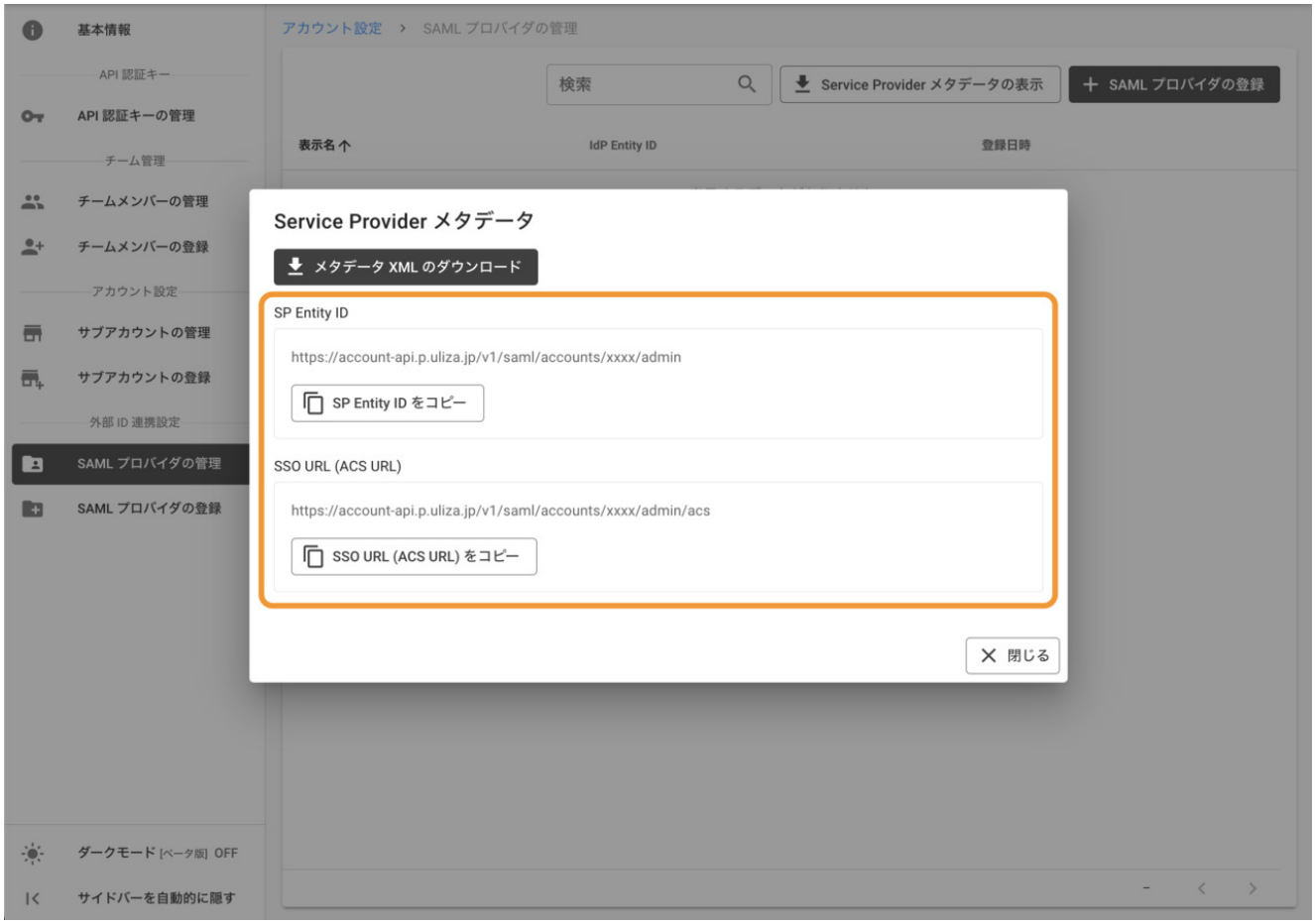
> **注意**

> SAML認証の利用可否は契約により異なります。サイドバーに「SAMLプロバイダの管理」メニューが表示されていない場合は、SAML認証は利用できません。弊社までお問い合わせください。

2. 「Service Providerメタデータの表示」ボタンをクリックします。

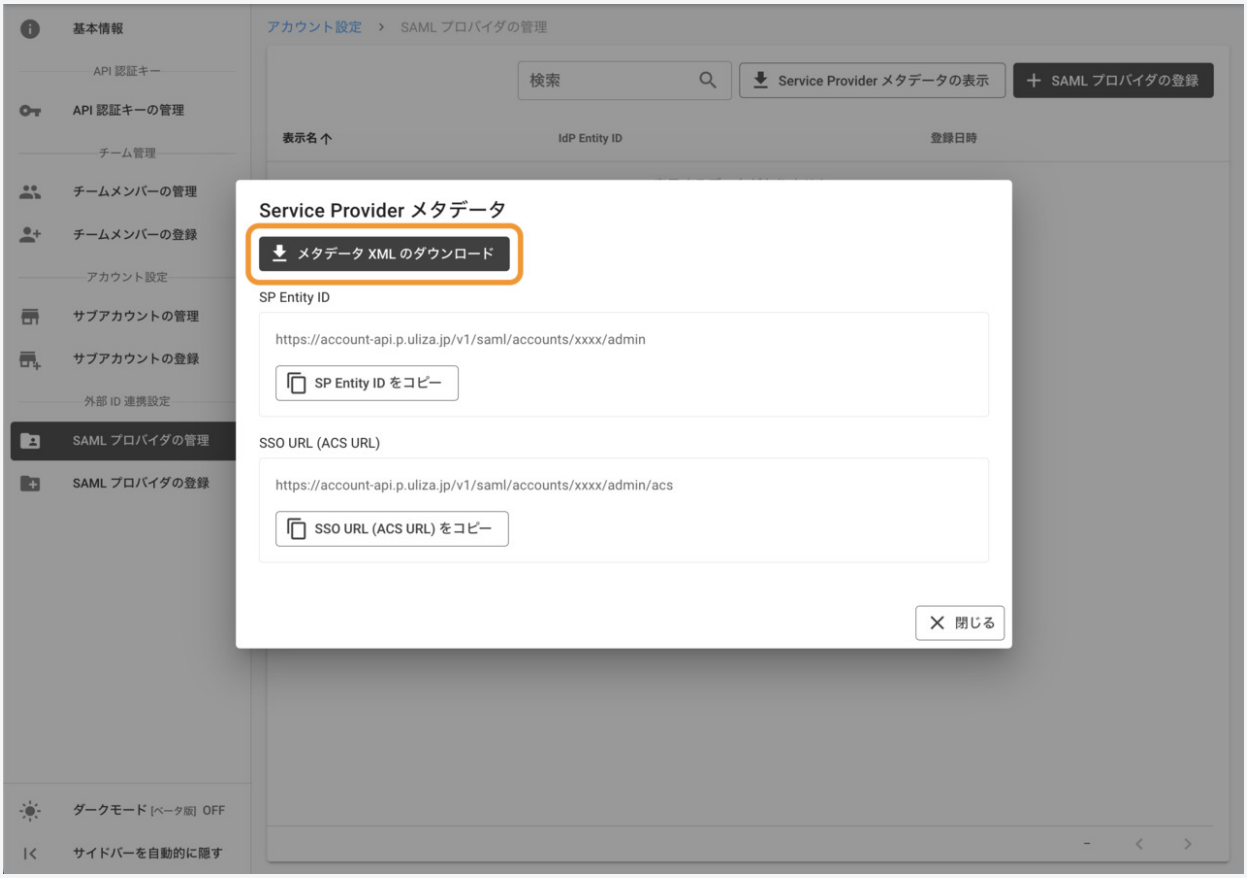


3. 表示される「SP Entity ID」および「SSO URL (ACS URL)」の値をメモしておきます。



補足

IdPがメタデータXMLのアップロードに対応している場合（Azure Active Directoryなど）は、上記の値をメモしておく代わりに「メタデータXMLのダウンロード」ボタンをクリックして、設定値をXMLファイルとしてダウンロードできます。



IdPにULIZAを登録する

以下の設定例を参考に設定を行います。

- Auth0の場合
- Azure Active Directoryの場合
- CloudGate UNOの場合
- Oktaの場合
- OneLoginの場合

ULIZAにIdPを登録する

1. ULIZAのアカウント設定から「SAMLプロバイダの管理」画面を開きます。

注意

SAML認証の利用可否は契約により異なります。サイドバーに「SAMLプロバイダの管理」メニューが表示されていない場合は、SAML認証は利用できません。弊社までお問い合わせください。

2. 「SAMLプロバイダの登録」ボタンをクリックします。
3. 「基本情報」セクションについて、以下のように設定します。

項目	設定値
表示名	任意の名前（例：「Auth0」「Azure AD」など）を入力
Identity Providerメタデータ	IdPから取得したメタデータXMLをアップロード

4. 「保存」ボタンをクリックします。

権限制御

IdPにより認証された使用者には、関連付けられているULIZAプロダクトアカウントに付与されているすべての権限（ただし、チームメンバーやサブアカウントの管理権限など、「ULIZAプロダクト共通」グループに含まれる権限は除く）がデフォルトで付与されます。この挙動を変更するには、以下に示すSAML AttributeをSAMLレスポンスに含めることで、権限設定をULIZAに渡すことができます。

- **Name** ： `https://account-api.p.uliza.jp/v1/saml/attributes/permissions`
- **Value** ： 下表に示す権限表現文字列（コンマ区切りで複数指定可）

権限	権限表現文字列
すべての権限（ULIZAプロダクト共通を含む）	`*`
ULIZA VMS (Cloud)のすべての権限	`manager:*`
ULIZA VMS (Cloud)のすべての取得系の権限	`manager:GET:*`
ULIZA VMS (Cloud)のすべての登録系の権限	`manager:POST:*`
ULIZA VMS (Cloud)のすべての更新系の権限	`manager:PUT:*`
ULIZA VMS (Cloud)のすべての削除系の権限	`manager:DELETE:*`
ULIZA En-Cluster (Cloud)のすべての権限	`encoder:*`
ULIZA Player (Cloud)のすべての権限	`player:*`
ULIZA Video Analytics (Cloud)のすべての権限	`analyticsv2:*`
ULIZA IP Broadcaster (Cloud)のすべての権限	`ipb:*`
ULIZA Live Event Managerのすべての権限	`liveEventManager:*`
ULIZA Sidetalkのすべての権限	`sidetalk:*`

> **補足**
>
> 上表に記載のない権限についても設定可能な場合があります。詳しくはお問い合わせください。

IdPの具体的な設定方法については、IdPの提供元にお問い合わせください。

設定例

ULIZA VMS (Cloud)のすべての権限とULIZA Sidetalkのすべての権限を付与するには、SAMLレスポンスに以下のようなSAML Attributeを含める必要があります。

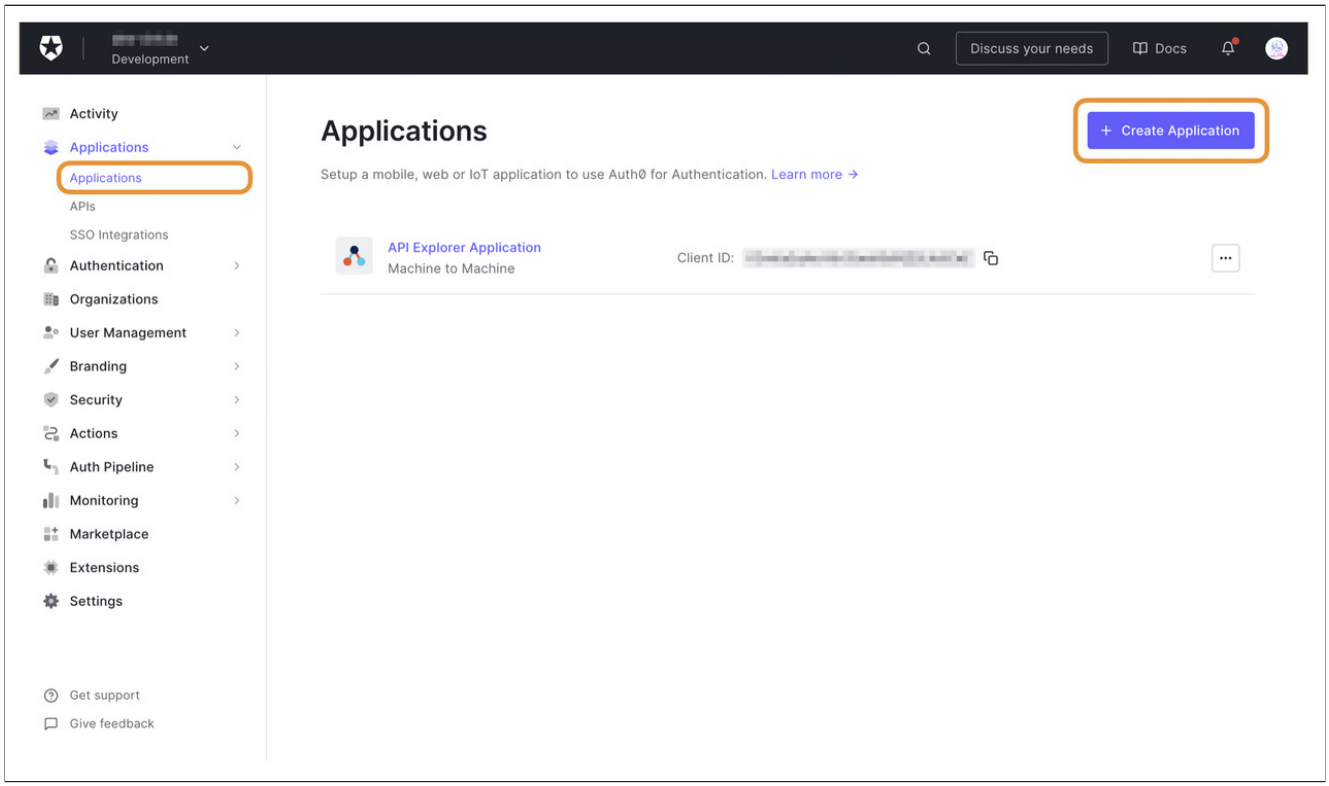
```
<Attribute Name="https://account-api.p.uliza.jp/v1/saml/attributes/permissions">
  <AttributeValue>manager:*,sidetalk:*</AttributeValue>
</Attribute>
```

IdP設定例

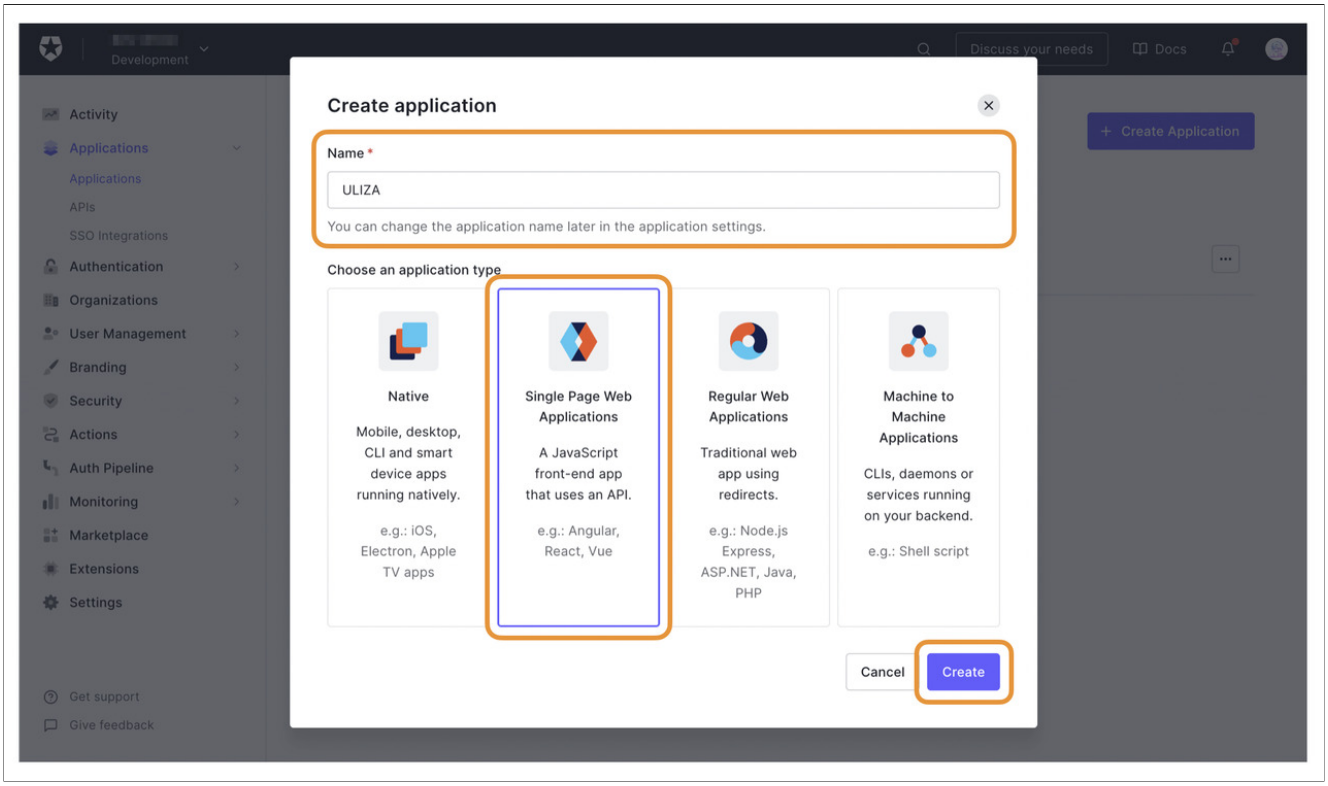
> **注意**
>
> IdP設定例は2022年8月時点の情報に基づき作成しています。

Auth0の場合

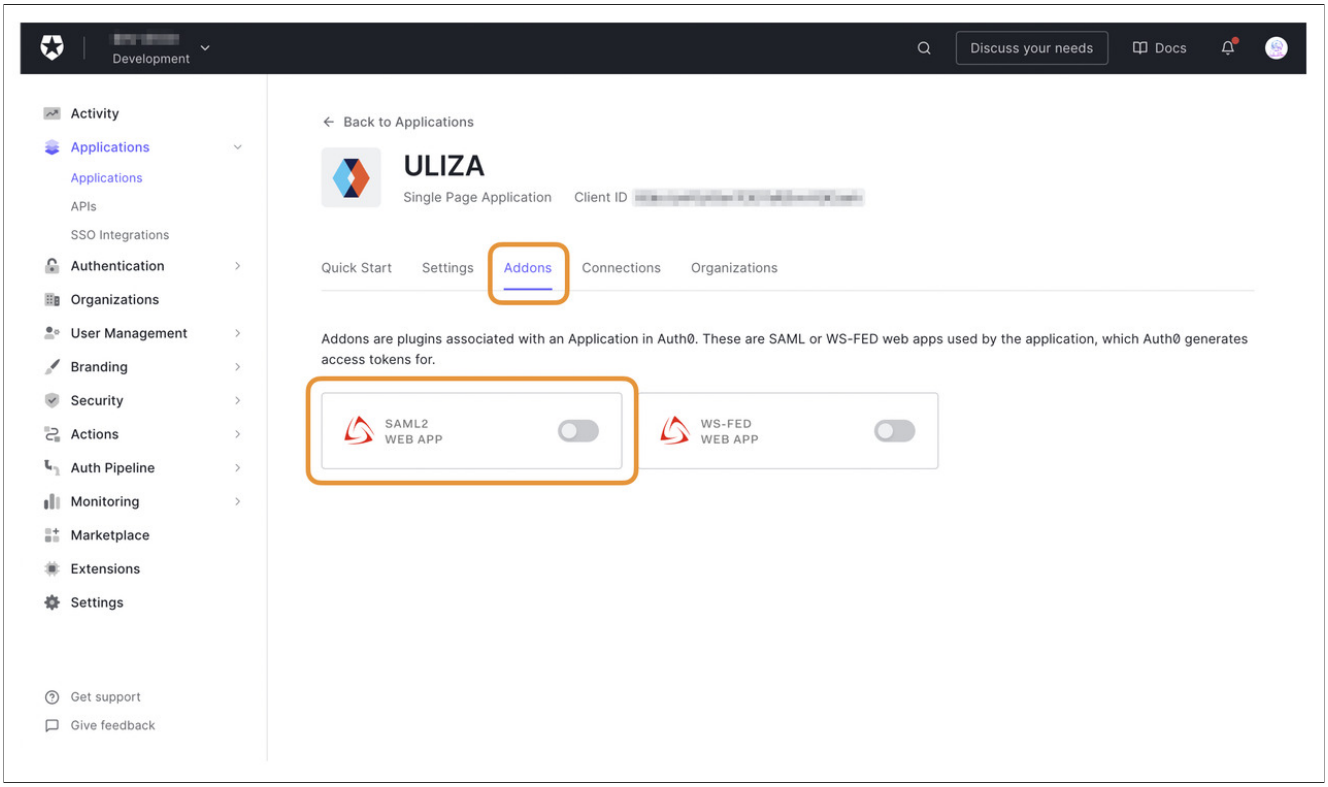
1. Auth0 Dashboard を開きます。
2. 左側のメニューから「Applications＞Applications」をクリックしてアプリケーション一覧画面を開きます。
3. 「Create Application」ボタンをクリックします。



4. 「Name」に任意のアプリケーション名（例：「ULIZA」）を入力し、「Single Page Web Applications」を選択して「Create」ボタンをクリックします。

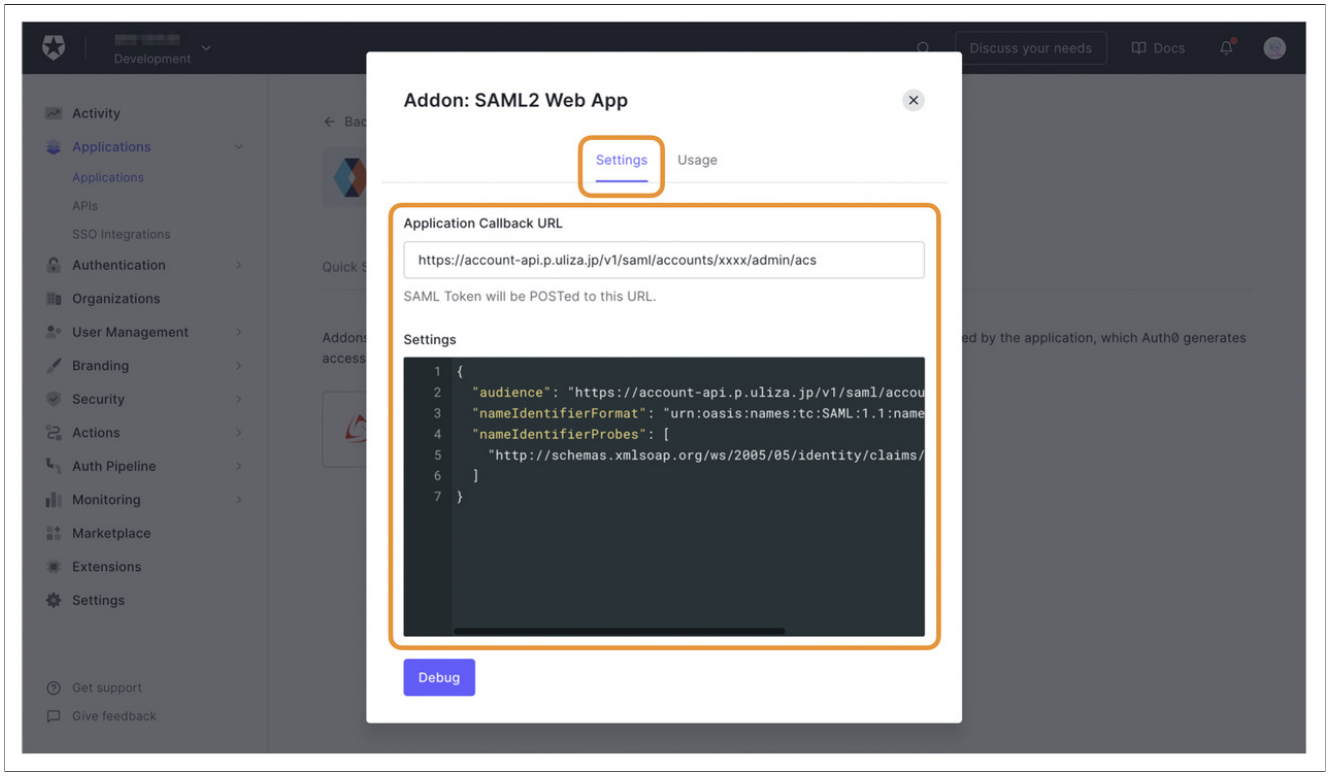


5. 「Addons」タブを開き、「SAML2 WEB APP」をクリックします。

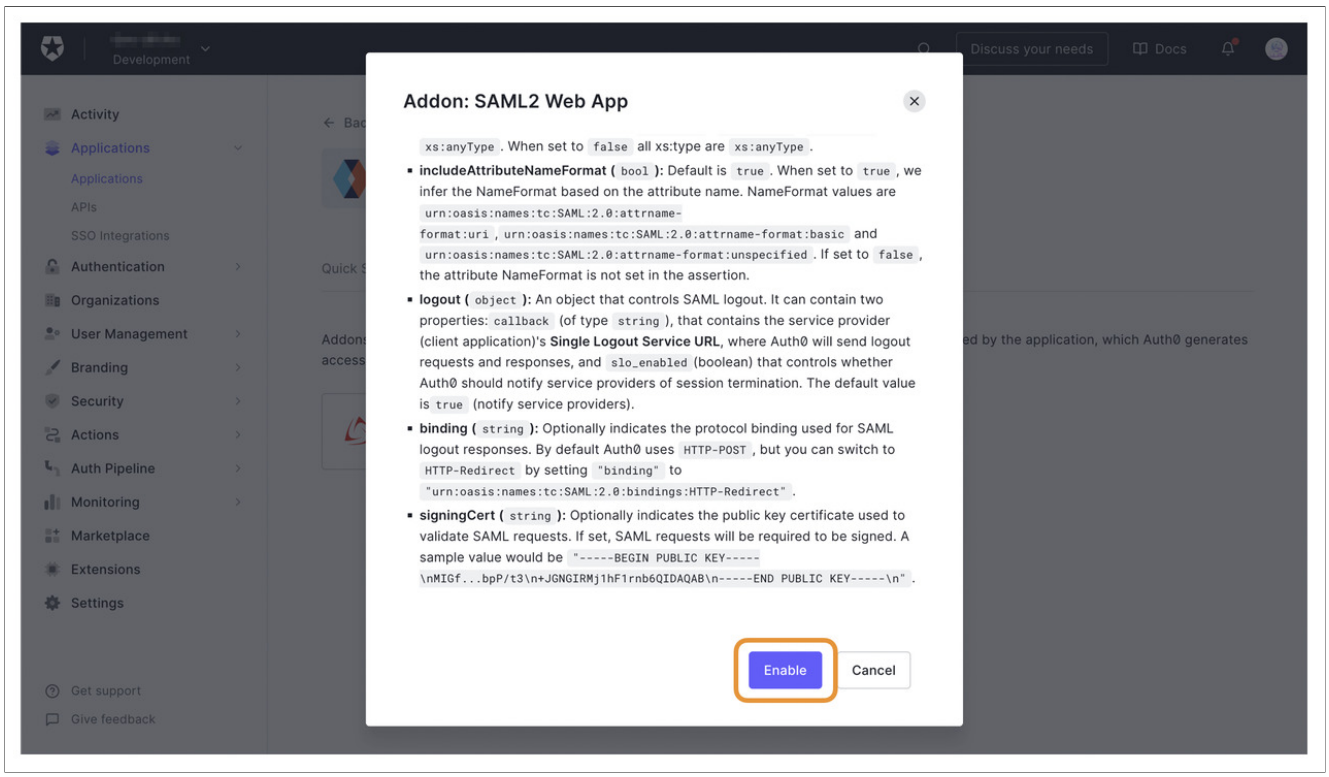


6. 「Settings」タブを開き、「Application Callback URL」にこちらでメモしておいた「SSO URL (ACS URL)」の値を入力します。また、「Settings」には以下のようなJSON文字列を入力します。ただし、`audience` の値はこちらでメモしておいた「SP Entity ID」の値に書き換える必要があります。

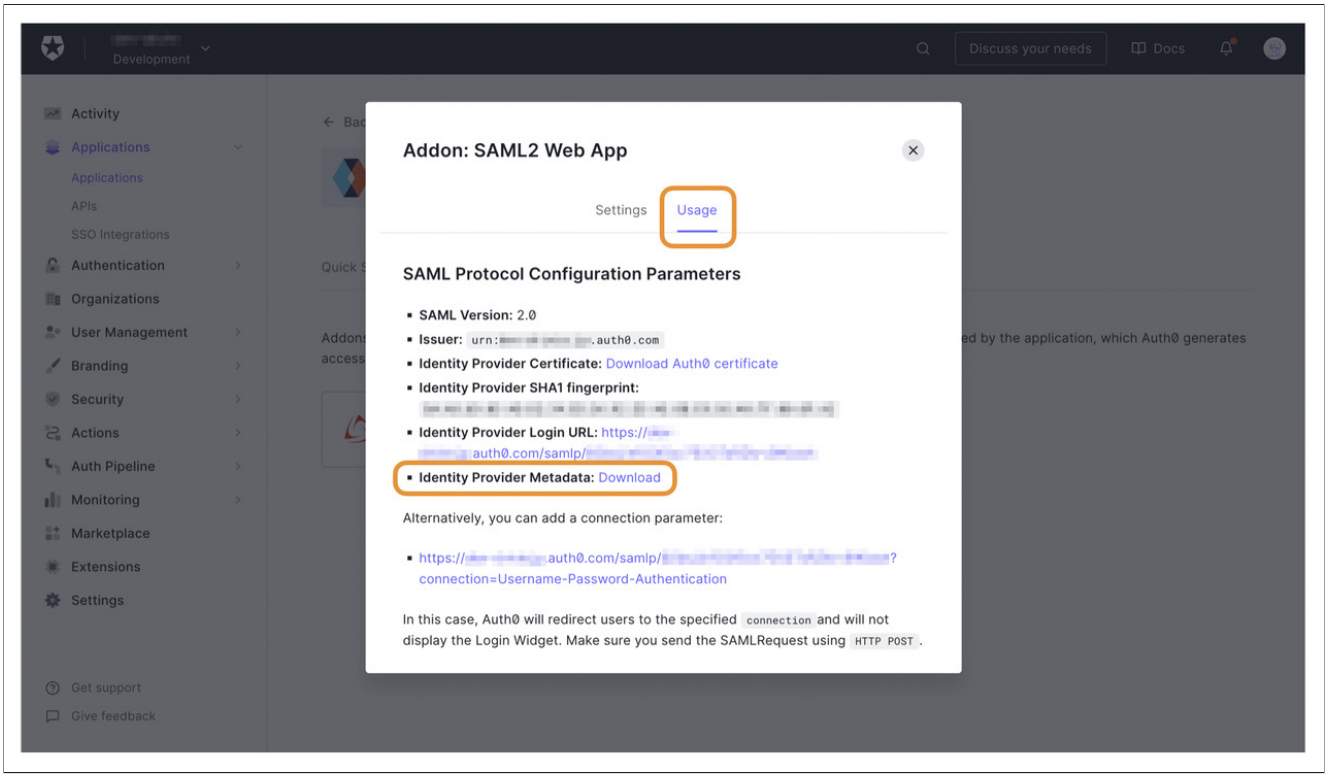
```json
{
  "audience": "https://account-api.p.uliza.jp/v1/saml/accounts/xxxx/admin", // 書き換えが必要
  "nameIdentifierFormat": "urn:oasis:names:tc:SAML:1.1:nameid-format:emailAddress",
  "nameIdentifierProbes": [
    "http://schemas.xmlsoap.org/ws/2005/05/identity/claims/emailaddress"
  ]
}
```



7. ダイアログボックス最下部にある「Enable」ボタンをクリックします。



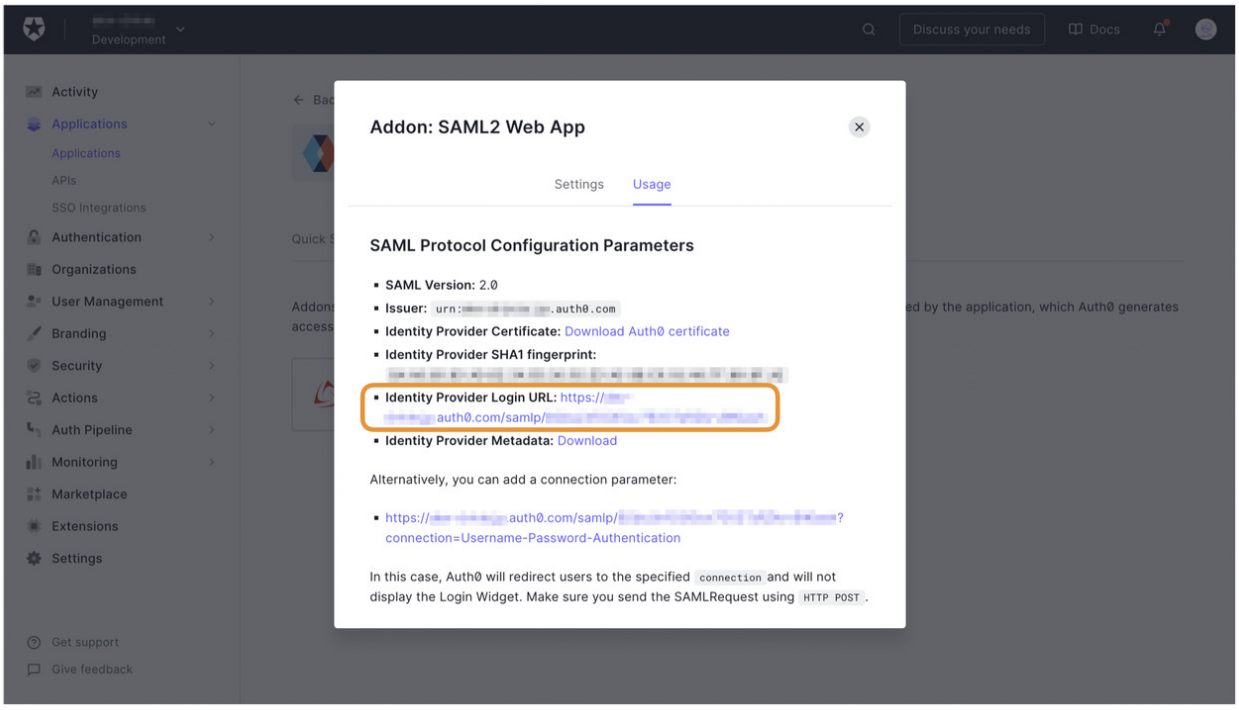
8. 「Usage」タブをクリックします。
9. 「Identity Provider Metadata」の右にある「Download」をクリックして、メタデータXMLをダウンロードしておきます。



引き続きULIZA側での設定を行います。

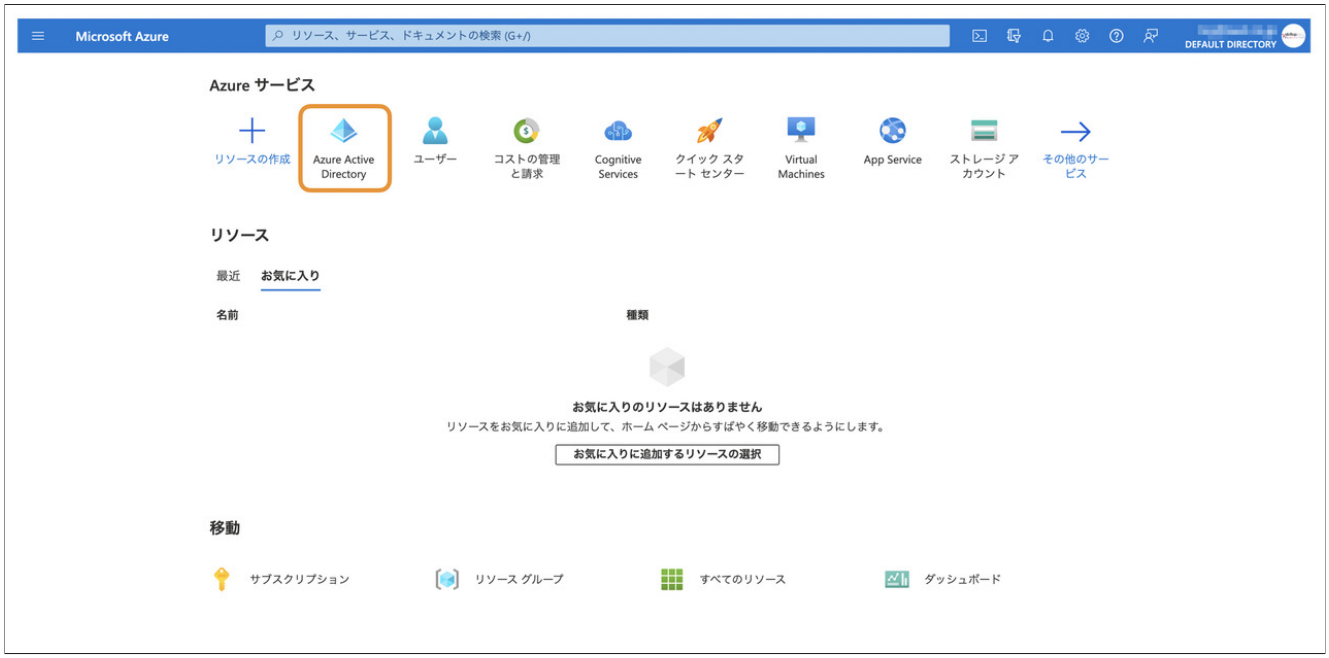
補足

ULIZA側での設定が完了すると「Identity Provider Login URL」にアクセスすることでULIZA管理画面にシングルサインオンできるようになります。

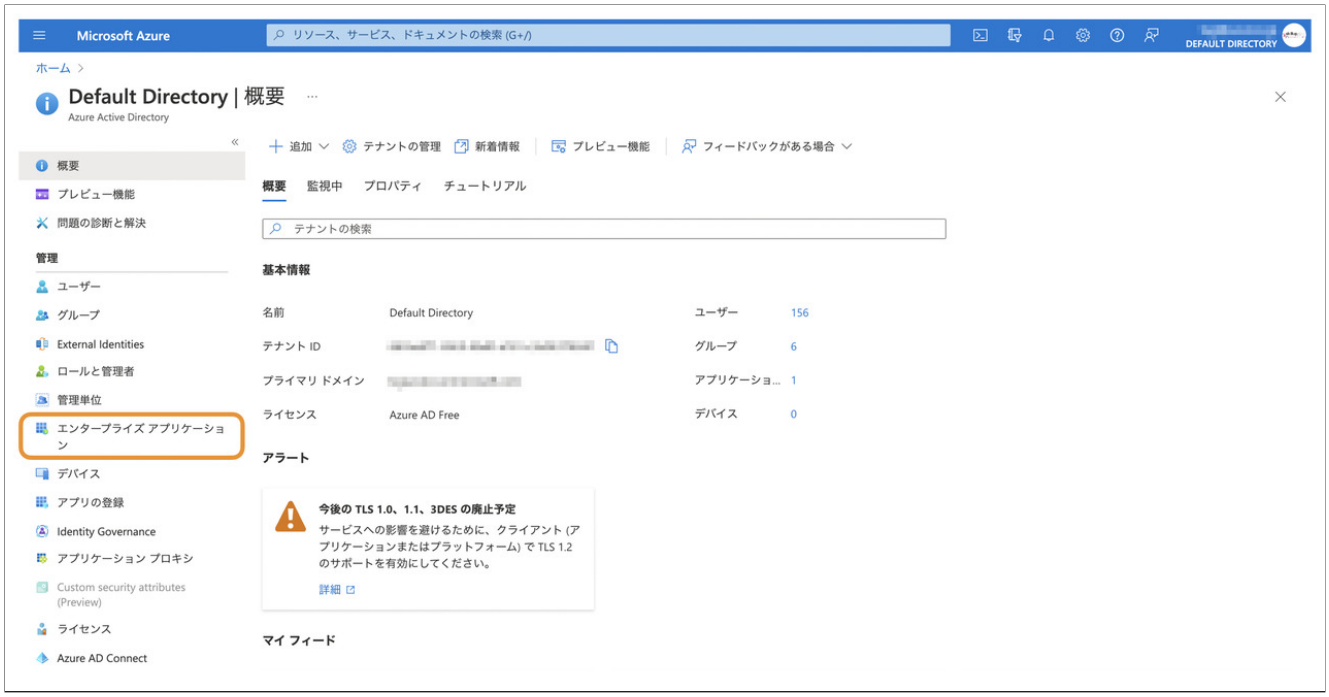


Azure Active Directoryの場合

1. Azureポータル にサインインします。
2. 「Azure Active Directory」をクリックします。

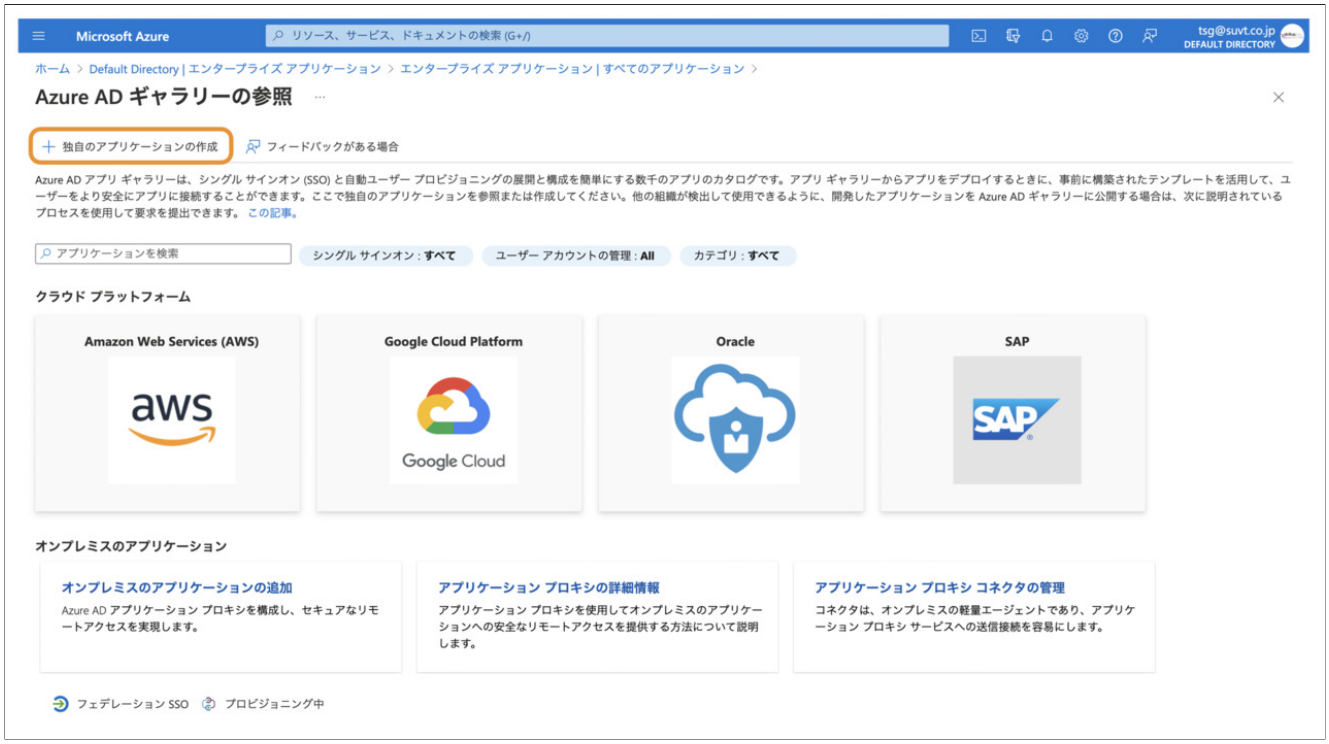


3. 左側のメニューから「エンタープライズ アプリケーション」をクリックします。



4. 左側のメニューから「すべてのアプリケーション」をクリックし、画面上部にある「新しいアプリケーション」をクリックします。

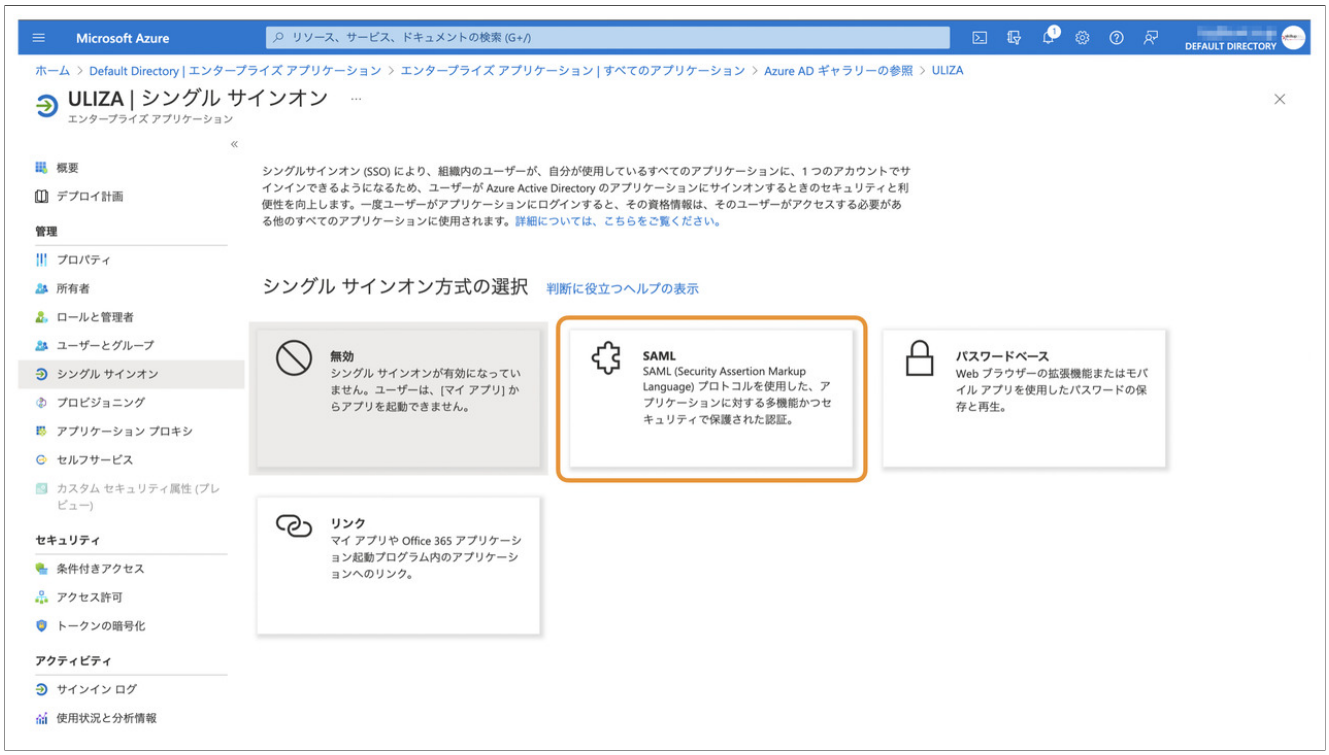
5. 「独自のアプリケーションの作成」をクリックします。



6. 任意のアプリケーション名（例：「ULIZA」）を入力し「作成」ボタンをクリックします。

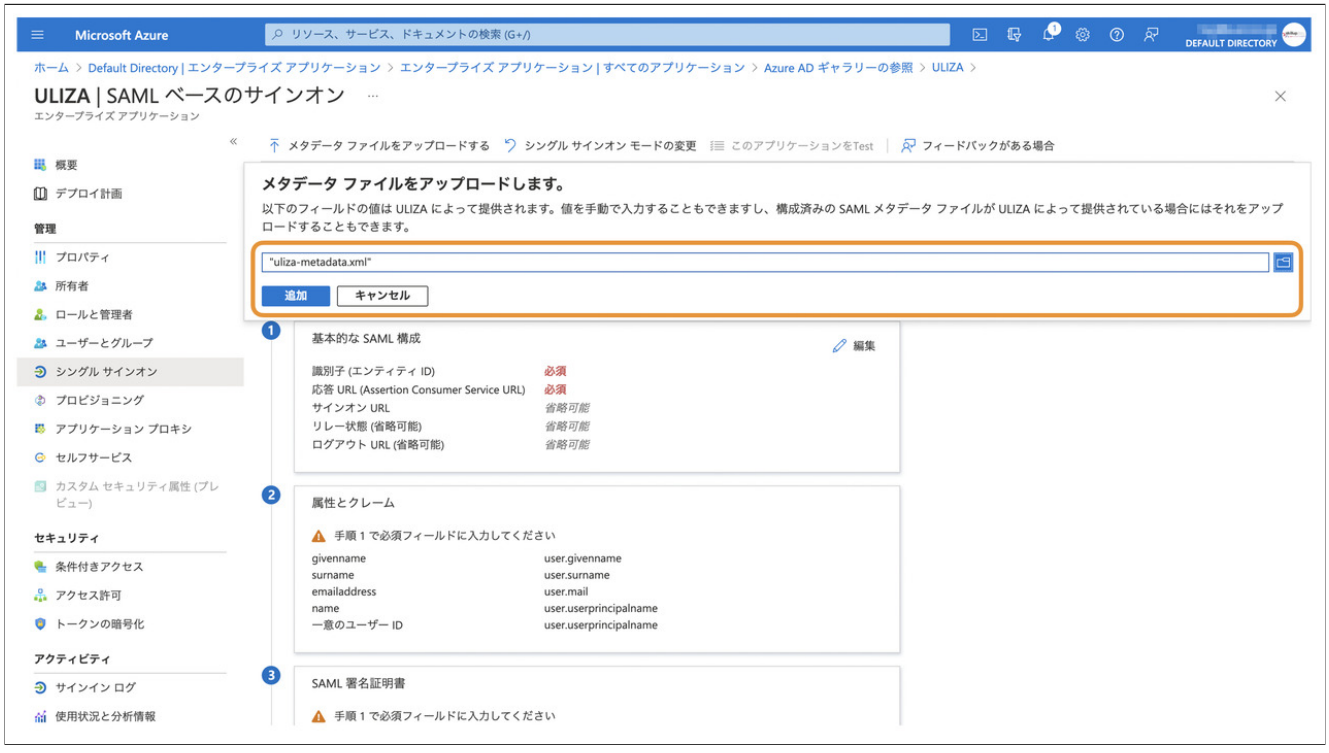
7. 「シングル サインオンの設定」をクリックします。

8. 「SAML」をクリックします。



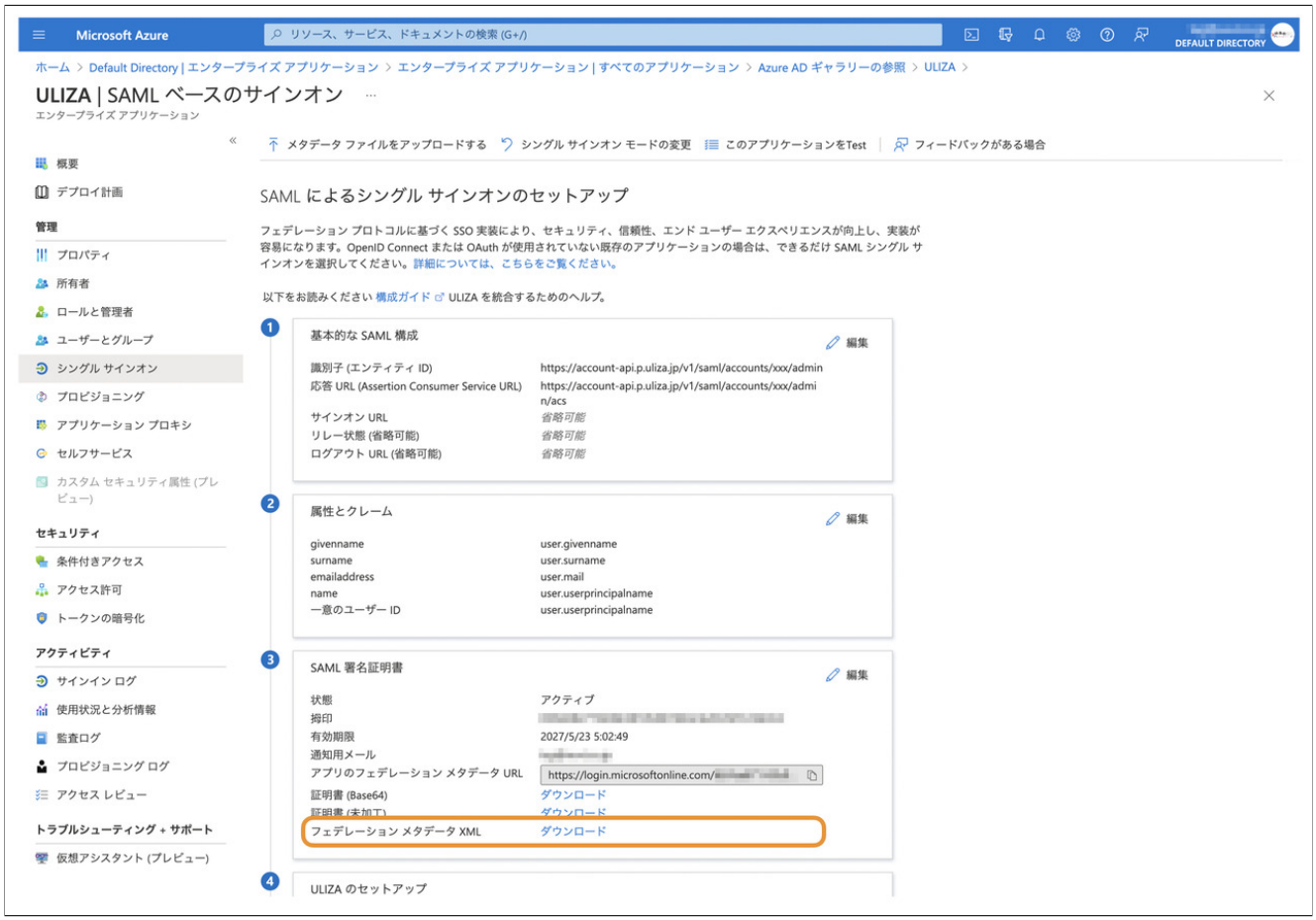
9. 「メタデータ ファイルをアップロードする」をクリックします。

10. こちらでダウンロードしておいたメタデータXMLファイルを選択して「追加」ボタンをクリックします。



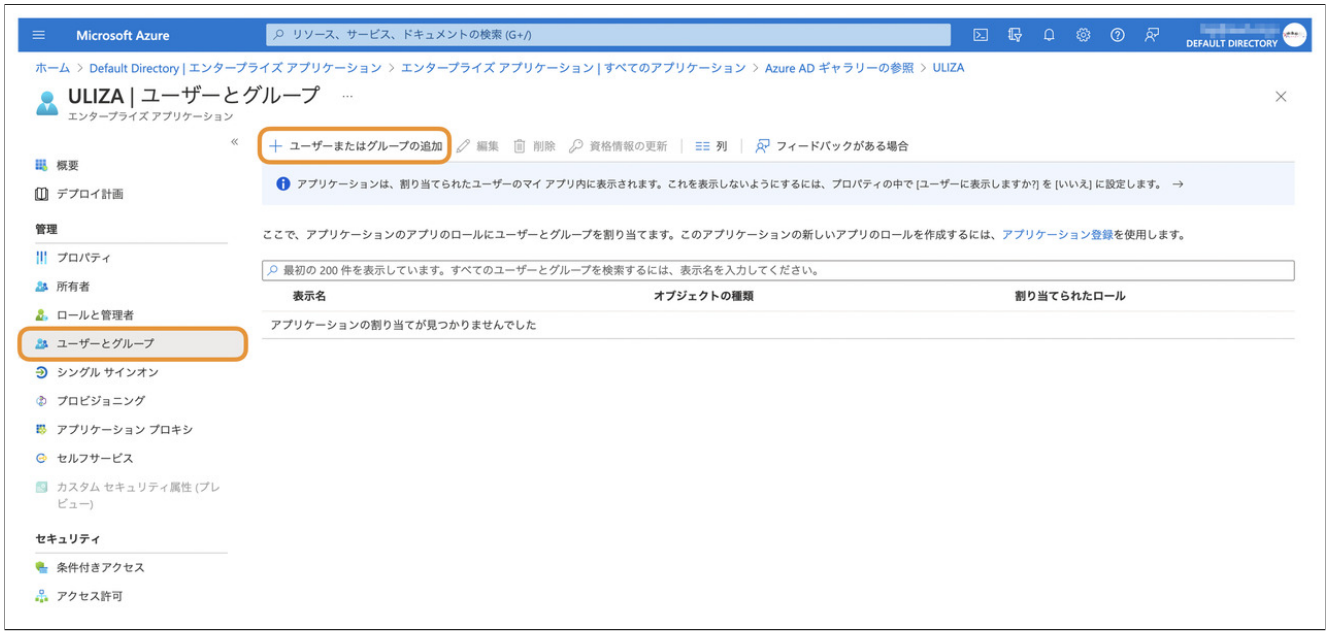
11. 「保存」ボタンをクリックします。

12. 「フェデレーション メタデータXML」の右にある「ダウンロード」をクリックして、メタデータXMLをダウンロードしておきます。

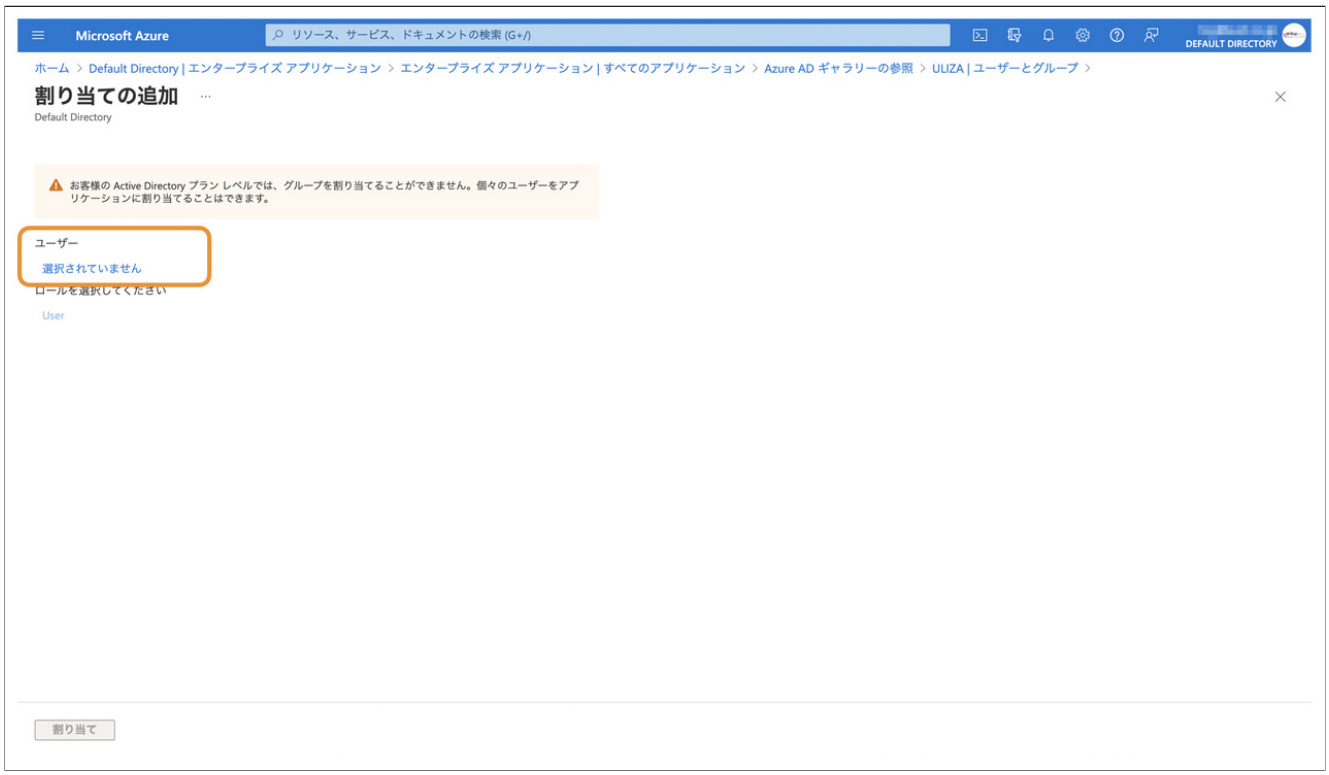


続いて、ULIZAにユーザーを割り当てます。

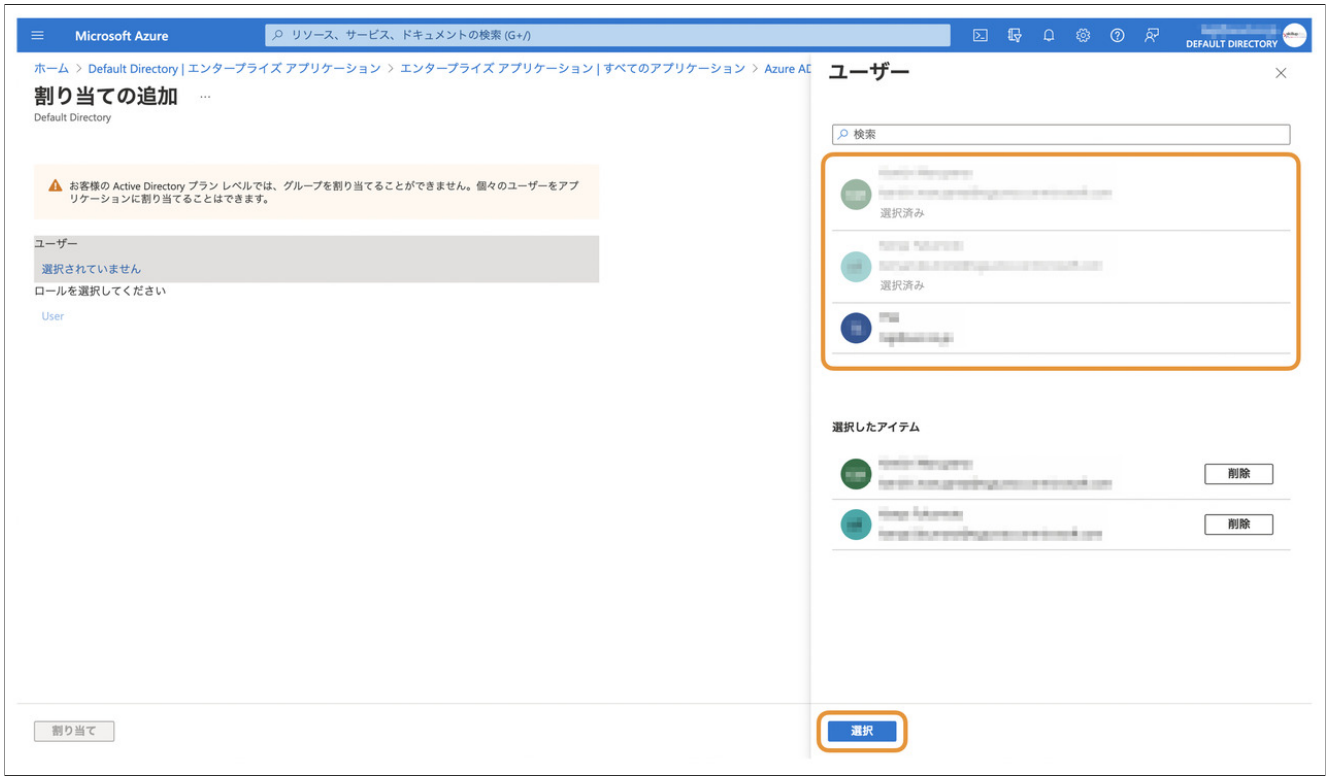
1. 左側のメニューから「ユーザーとグループ」をクリックします。
2. 画面上部にある「ユーザーまたはグループの追加」をクリックします。



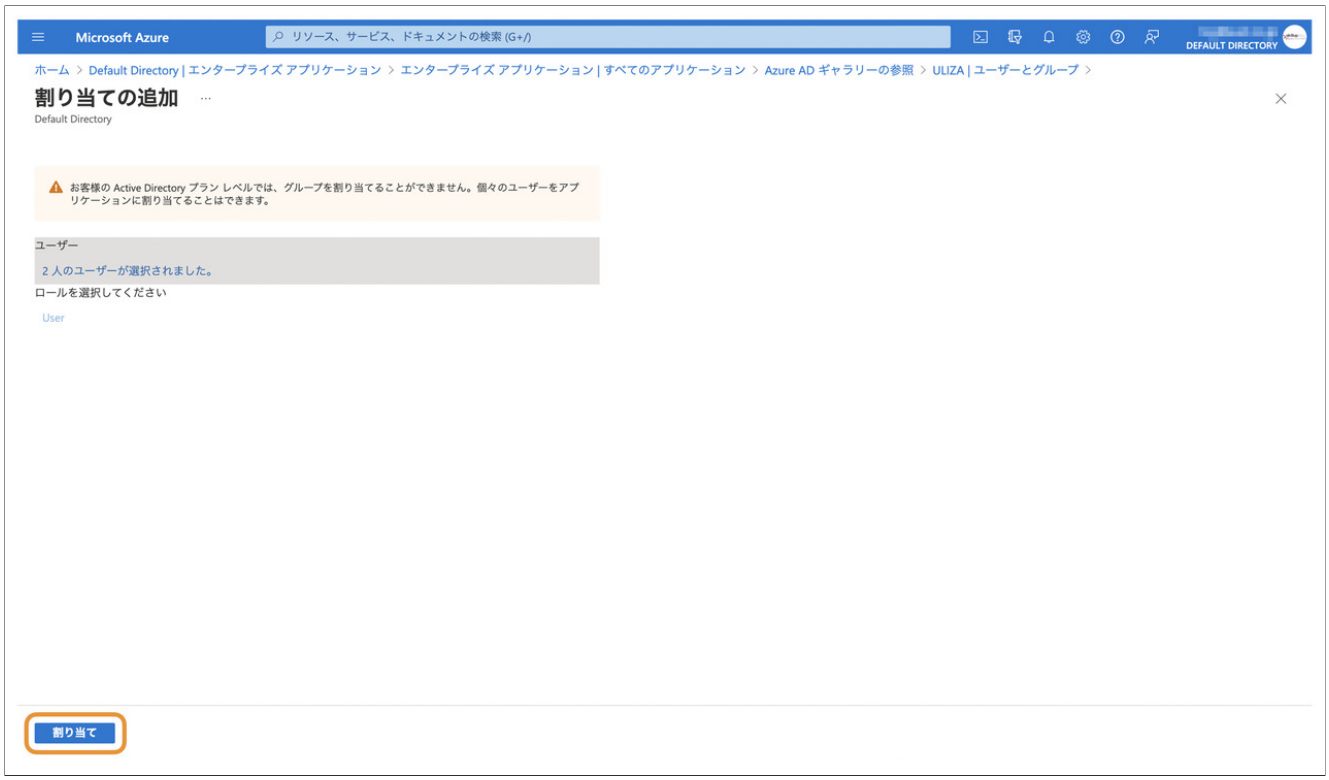
3. 「ユーザー」の下にある「選択されていません」をクリックします。



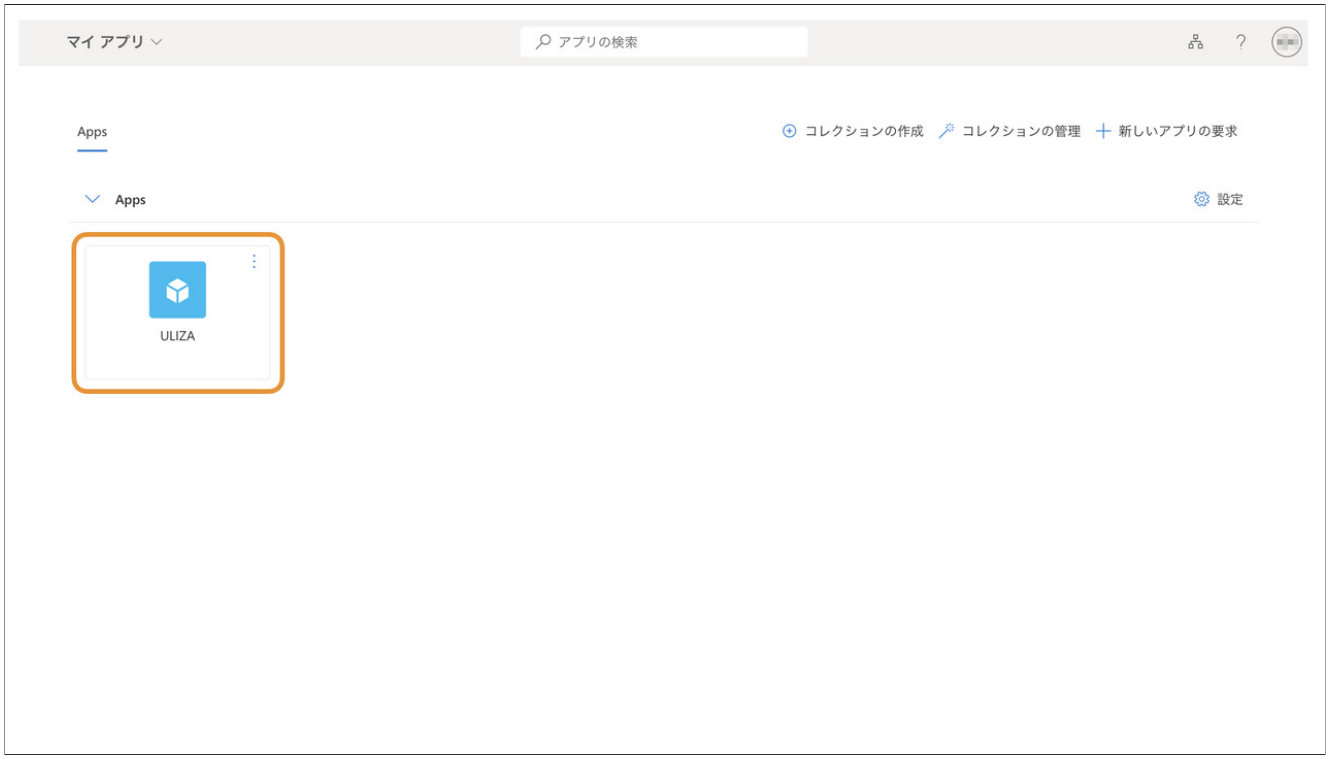
4. ULIZAへのアクセス権限を割り当てるユーザーをクリックして「選択」ボタンをクリックします。



5. 「割り当て」ボタンをクリックします。



6. 割り当てられたユーザーのマイ アプリ にULIZAへのリンクが表示されることを確認します。

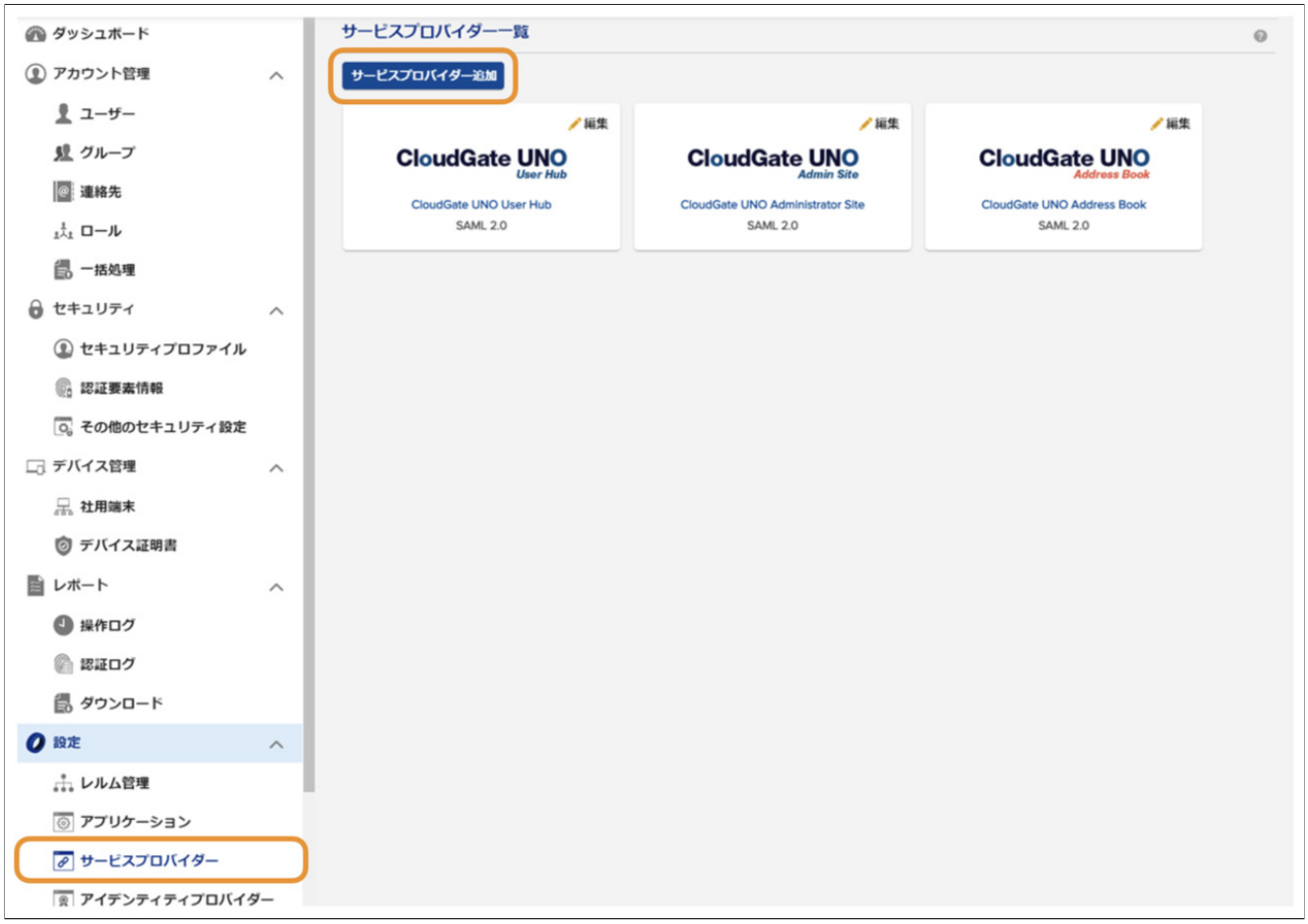


> **注意**
>
> この時点ではULIZA側での設定が完了していないため、ULIZAへのリンクをクリックするとエラーが発生します。

引き続きULIZA側での設定を行います。

CloudGate UNOの場合

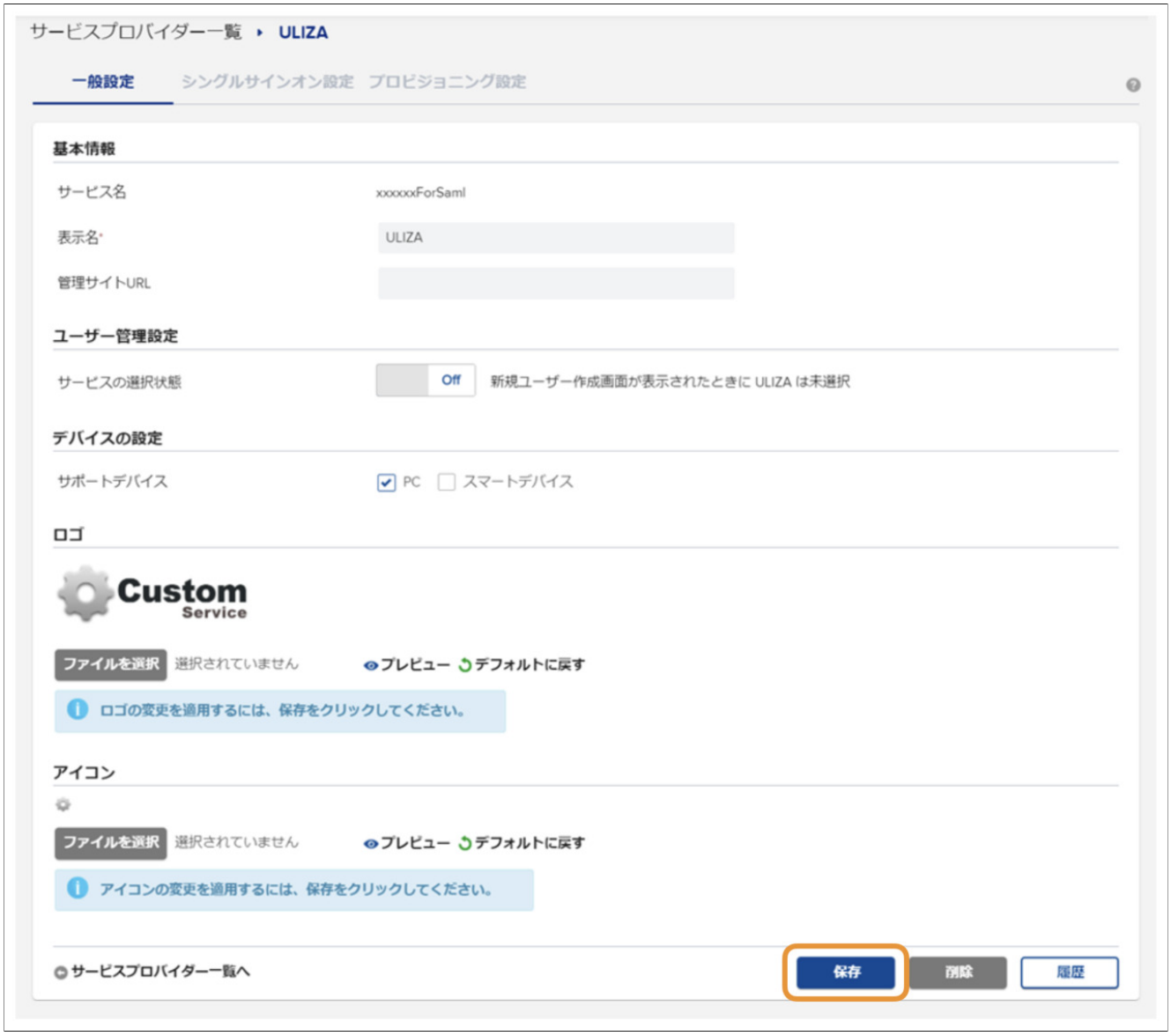
1. CloudGate UNO管理者サイト（CloudGate UNO Admin Site）を開きます。
2. 左側のメニューから「設定＞サービスプロバイダー」をクリックしてサービスプロバイダー一覧画面を開きます。
3. 一覧画面上部にある「サービスプロバイダー追加」ボタンをクリックします。



4. 検索ボックスに「xxxxxxForSaml」と入力して「検索」ボタンをクリックし、表示されたCustom Serviceの右上にある「追加」をクリックします。

5. 任意の表示名（例：「ULIZA」）を入力して「追加」ボタンをクリックします。

6. サービスプロバイダの「一般設定」画面が表示されます。必要に応じて「サービスの選択状態」や「ロゴ画像」などを設定し、「保存」ボタンをクリックします。



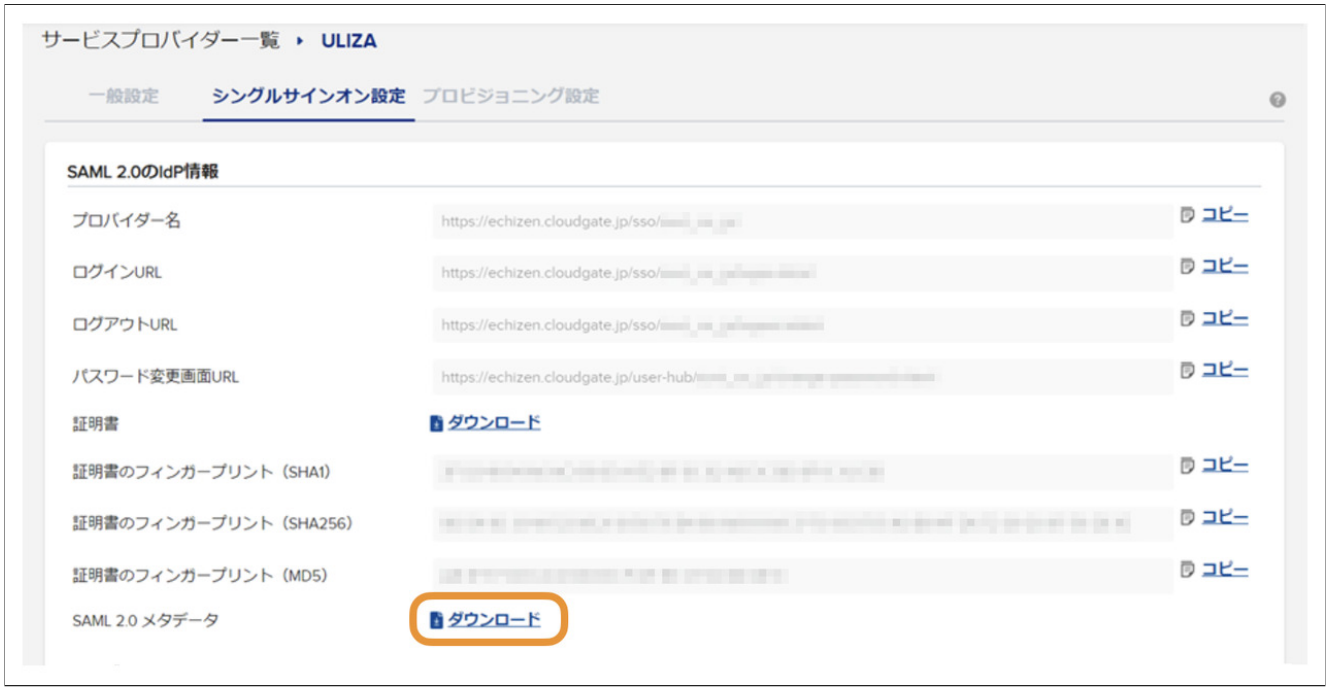
7. 「シングルサインオン設定」タブをクリックします。

8. 「シングルサインオンの設定」および「シングルサインオフの設定」セクションについて、以下のように設定します。

項目	設定値
IdP-initiated SSO	「On」に設定
SP-initiated SSO	「On」に設定
Issuer / Provider name / Entity ID	こちらでメモしておいた「SP Entity ID」の値を入力
Assertion consumer service URL	こちらでメモしておいた「SSO URL (ACS URL)」の値を入力
RelayState	何も入力しない
Name IDの形式	「urn:oasis:names:tc:SAML:1.1:nameid-format:emailAddress」を選択
リクエストへの署名	「Off」に設定（変更できません）

項目	設定値
レスポンスへの署名	「On」に設定
アサーションへの署名	「On」に設定
サインオフ方法	「なし」を選択

9. 「保存」ボタンをクリックします。
10. 「SAML 2.0メタデータ」の右にある「ダウンロード」をクリックして、メタデータXMLをダウンロードしておきます。



続いて、ULIZAにユーザーを割り当てます。

1. 左側のメニューから「アカウント管理＞ユーザー」をクリックしてユーザー管理画面を開きます。
2. ULIZAへのアクセス権限を割り当てるユーザーのユーザーIDをクリックします。

3. 「サービス」セクションで「ULIZA」にチェックを入れ、任意のアカウントIDを入力し「保存」ボタンをクリックします。

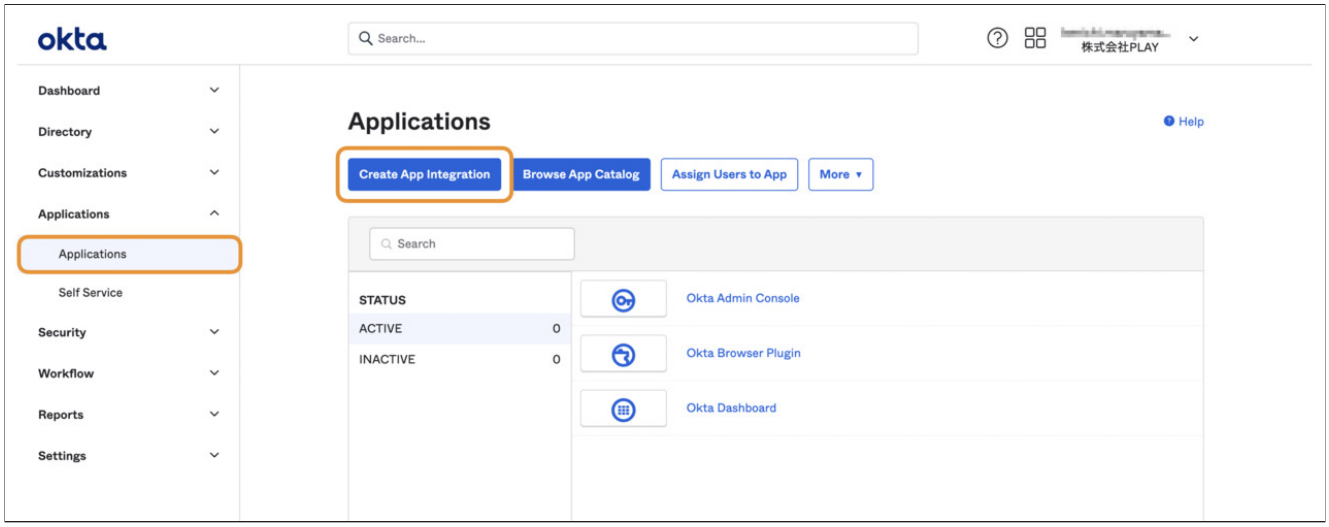
4. 割り当てられたユーザーのユーザーハブ（CloudGate UNO User Hub）にULIZAへのリンクが表示されることを確認します。

> **注意**
>
> この時点ではULIZA側での設定が完了していないため、ULIZAへのリンクをクリックするとエラーが発生します。

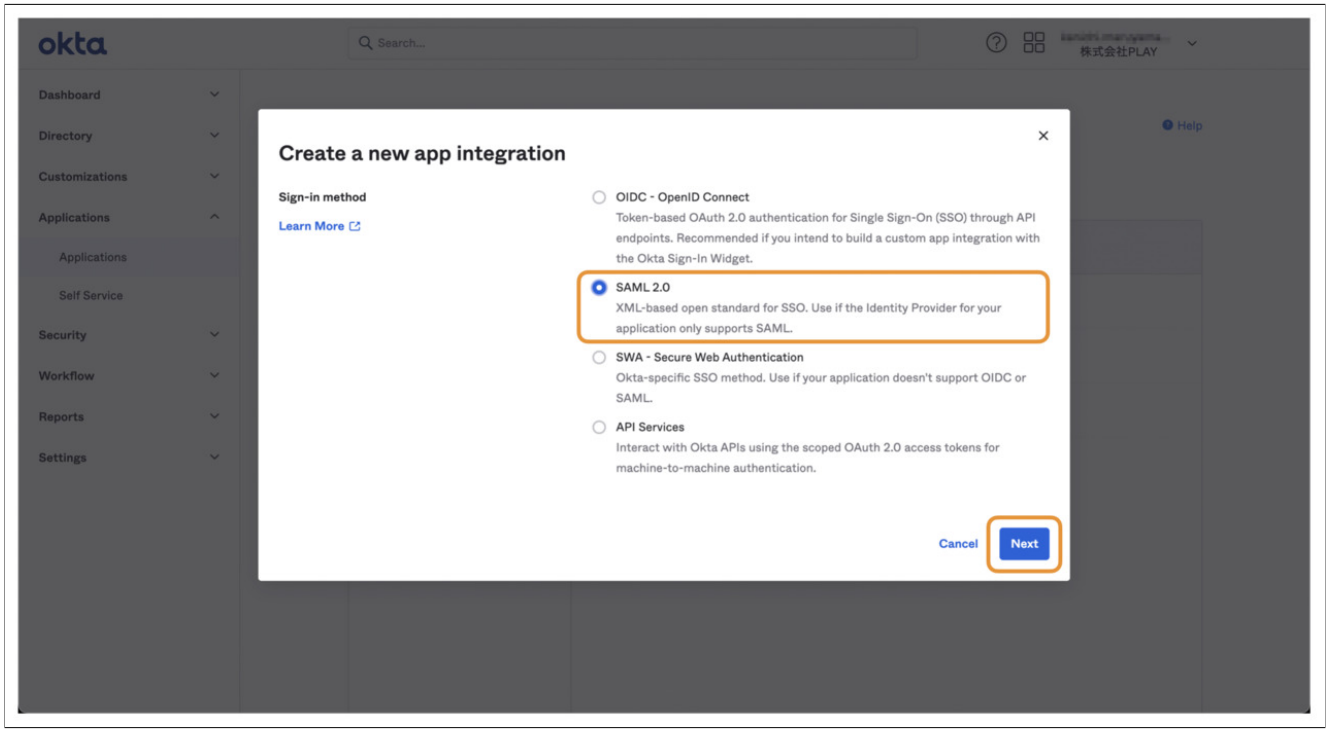
引き続きULIZA側での設定を行います。

Oktaの場合

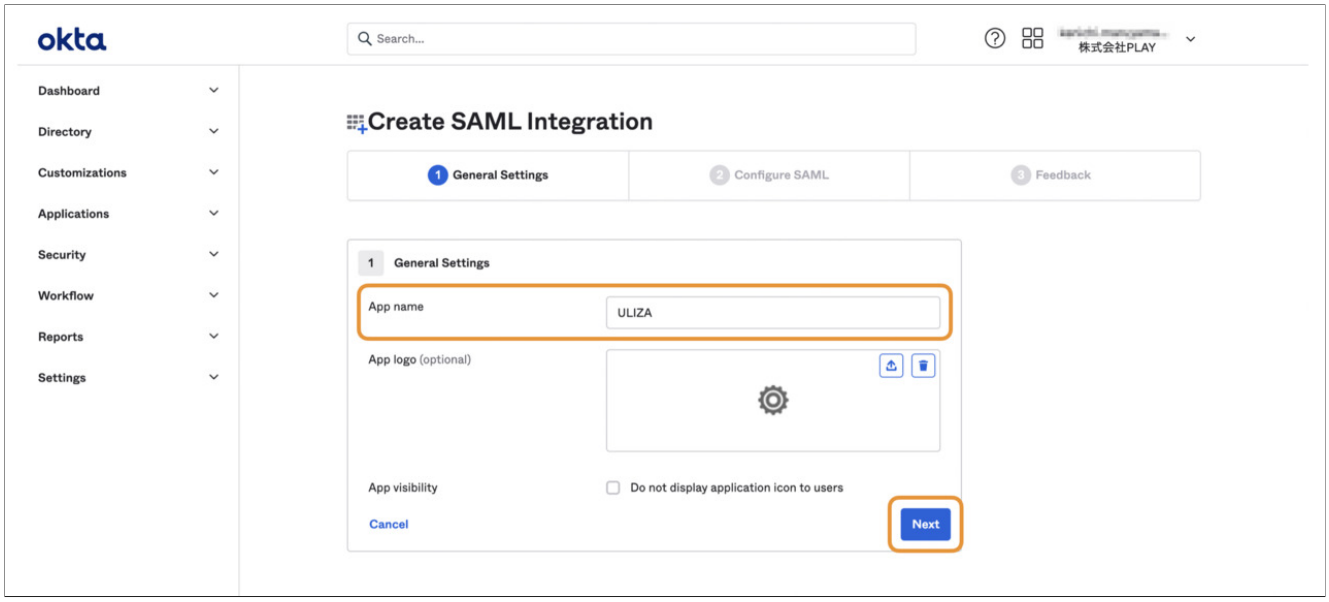
1. Okta Admin Consoleを開きます。
2. 左側のメニューから「Applications＞Applications」をクリックしてアプリケーション一覧画面を開きます。
3. 画面上部にある「Create App Integration」ボタンをクリックします。



4. 「SAML 2.0」を選択して「Next」ボタンをクリックします。

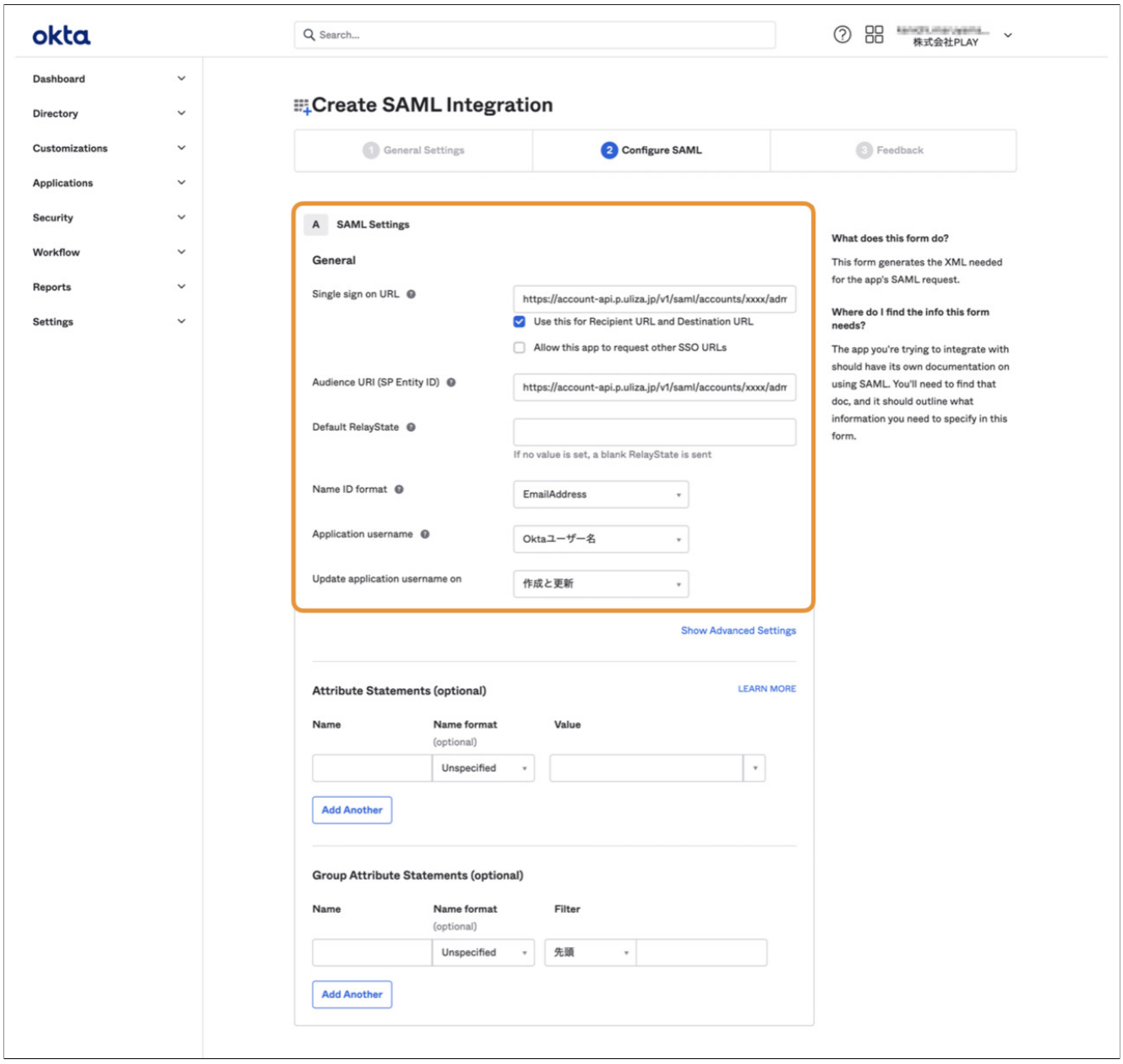


5. 「App Name」に任意のアプリケーション名（例：「ULIZA」）を入力します。必要に応じてロゴ画像などを設定し「Next」ボタンをクリックします。

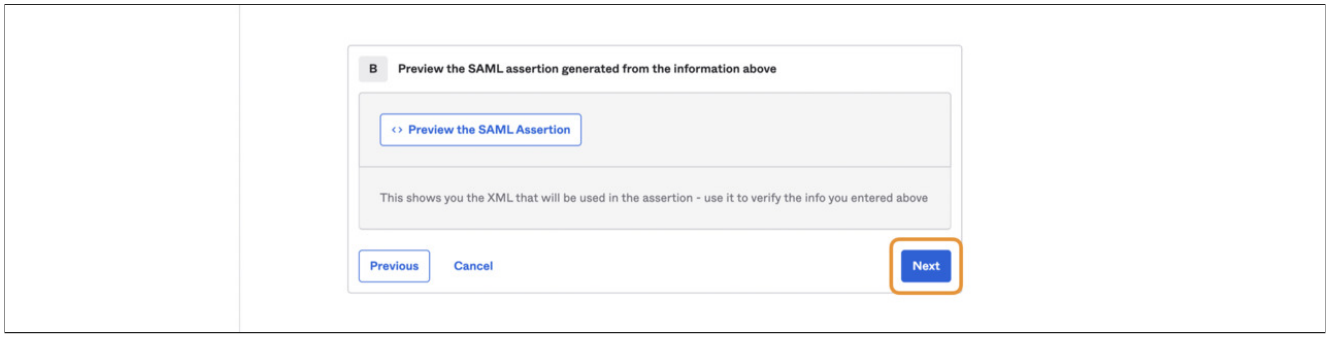


6. 「General」セクションについて、以下のように設定します。

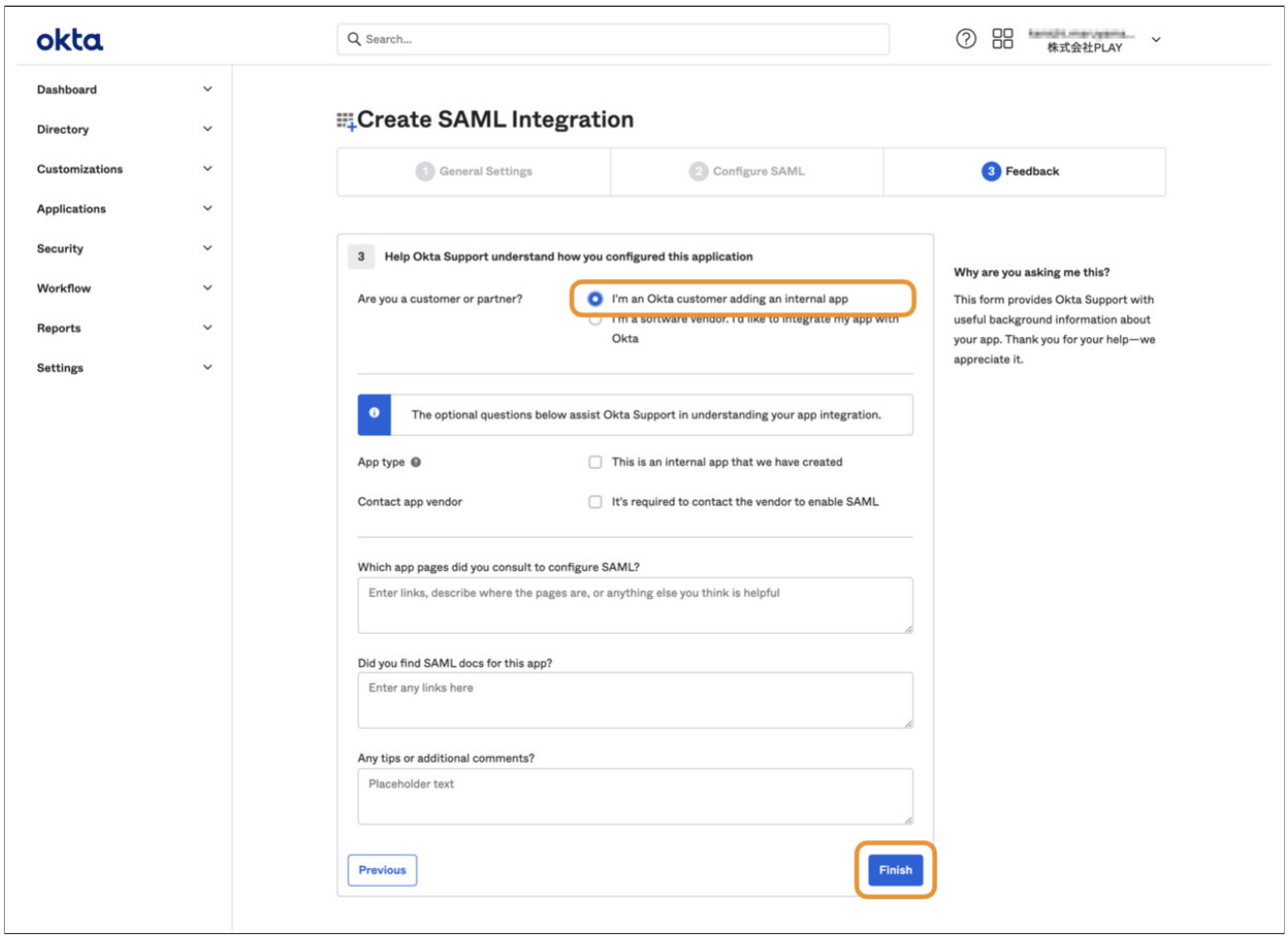
項目	設定値
Single sign on URL	こちらでメモしておいた「SSO URL (ACS URL)」の値を入力
Audience URI (SP Entity ID)	こちらでメモしておいた「SP Entity ID」の値を入力
Default RelayState	何も入力しない
Name ID format	「EmailAddress」を選択
Application username	「Oktaユーザー名」を推奨
Update application username on	「作成と更新」を選択



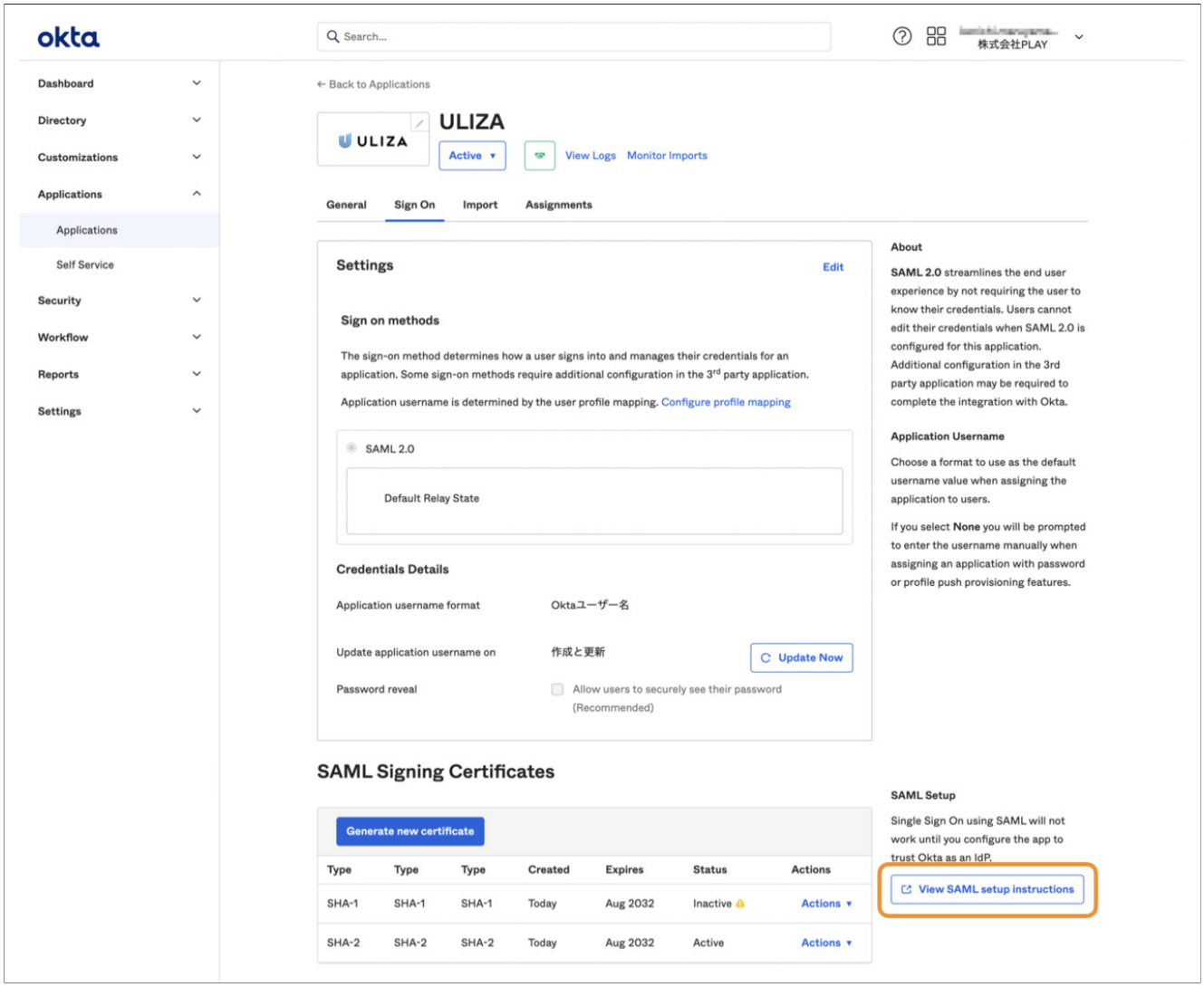
7. 「Next」ボタンをクリックします。



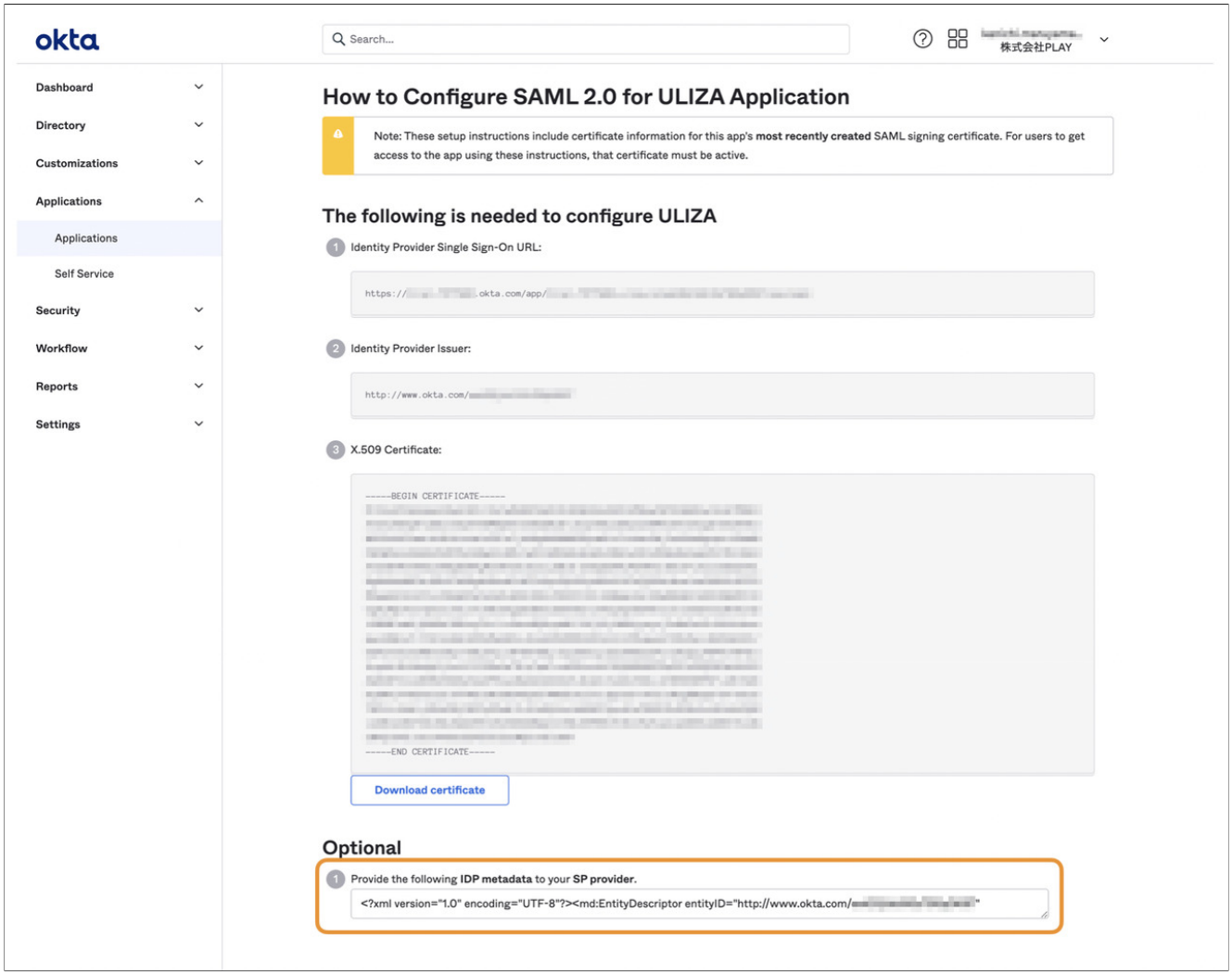
8. 「I'm an Okta customer adding an internal app」を選択し「Finish」ボタンをクリックします。



9. 「View SAML setup instructions」ボタンをクリックします。



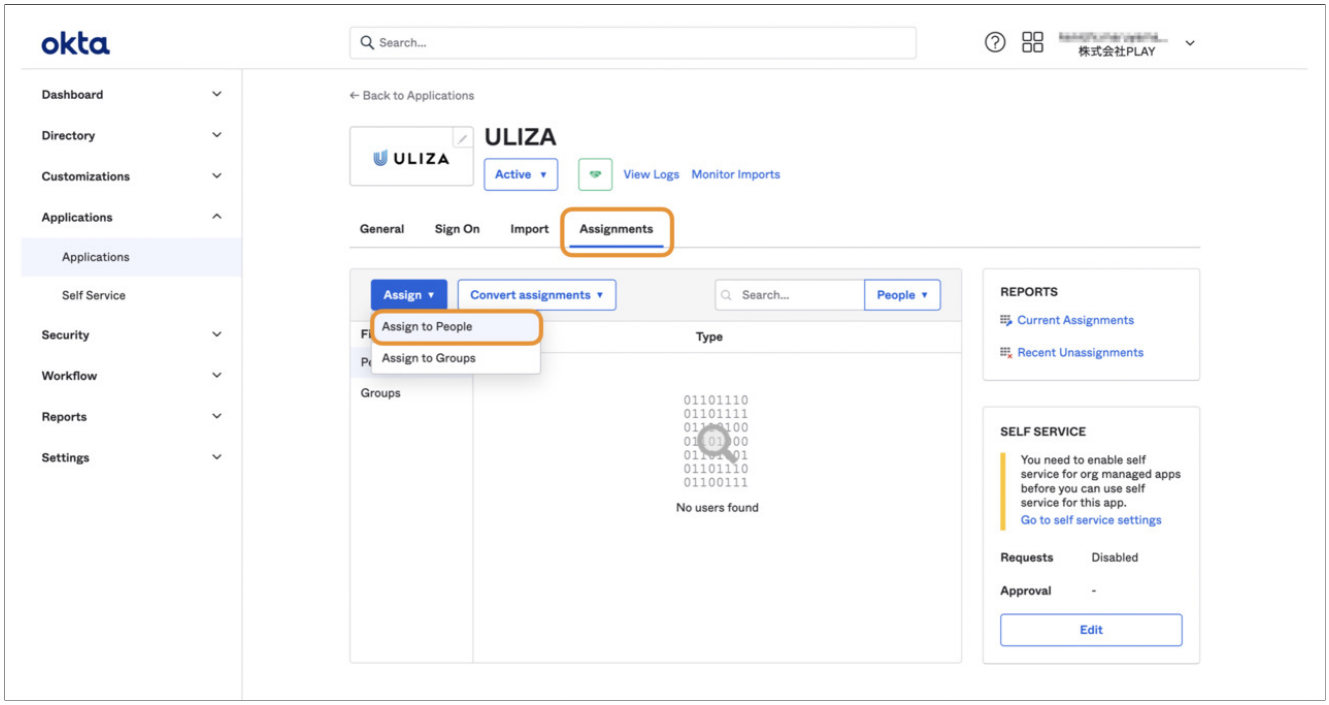
10. 最下部にある「IDP metadata」の内容全体をテキストエディタに貼り付け、「idp-metadata.xml」というファイル名で保存します。



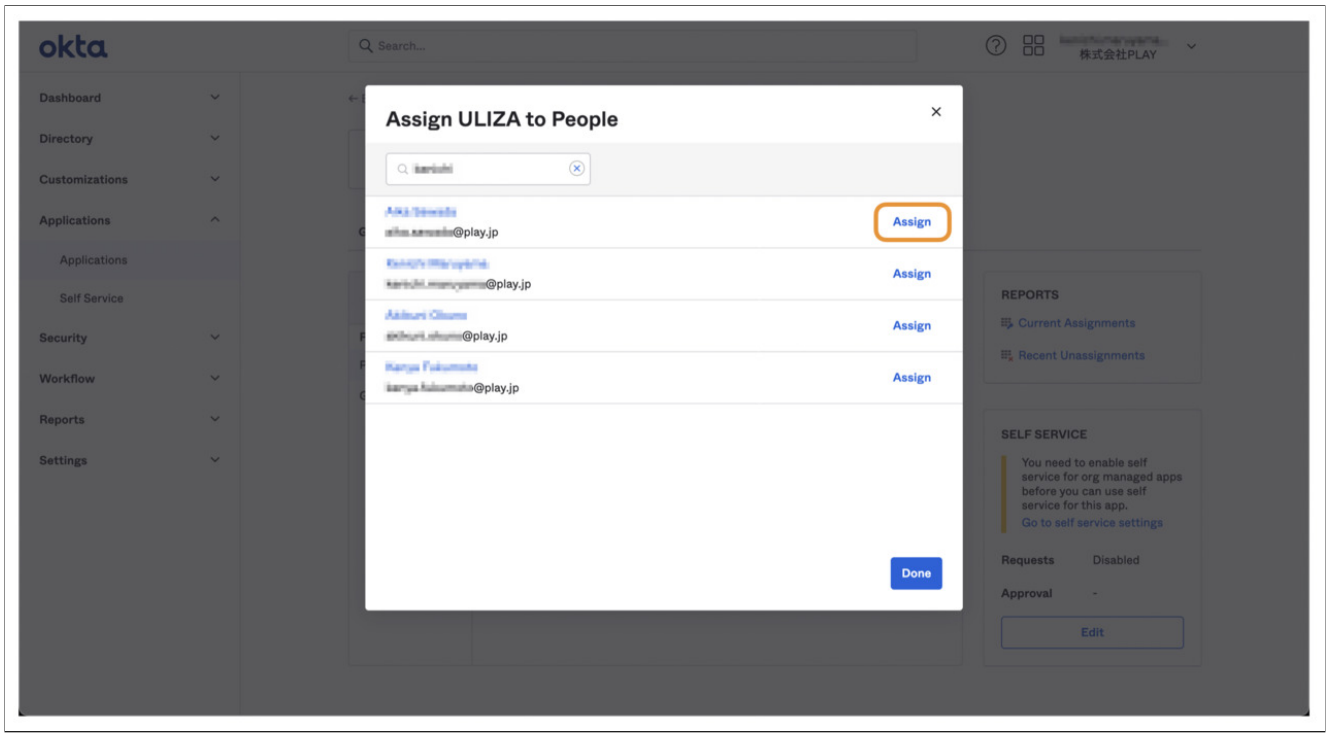
> **注意**
>
> IDP metadataは複数行にまたがる長い文字列です。テキストボックスを右クリックして「すべて選択」をクリックするか、Ctrl＋Aキーを使用して、IDP metadataの内容全体が確実にコピーされていることを確認してください。

続いて、ULIZAにユーザーを割り当てます。

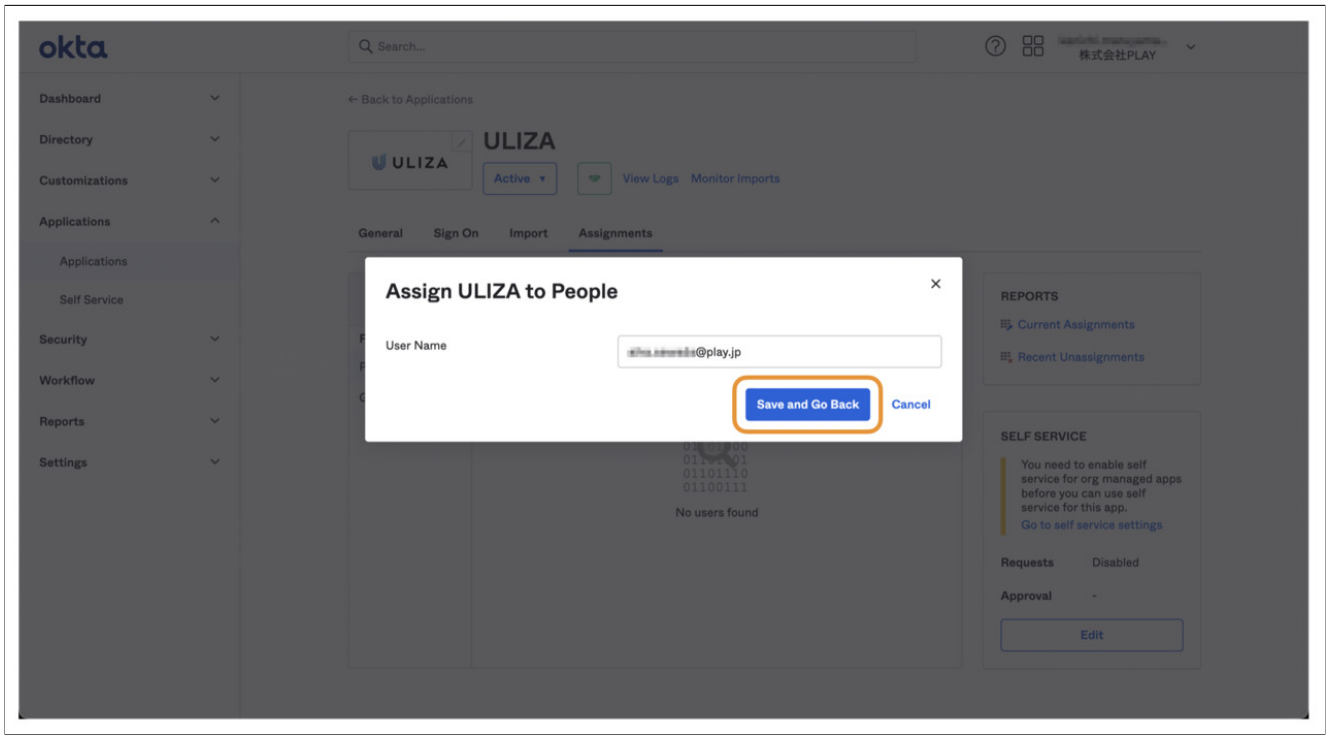
1. アプリケーション詳細画面で「Assignments」タブをクリックします。
2. 「Assign」ボタンをクリックし、表示されるメニューから「Assign to People」を選択します。



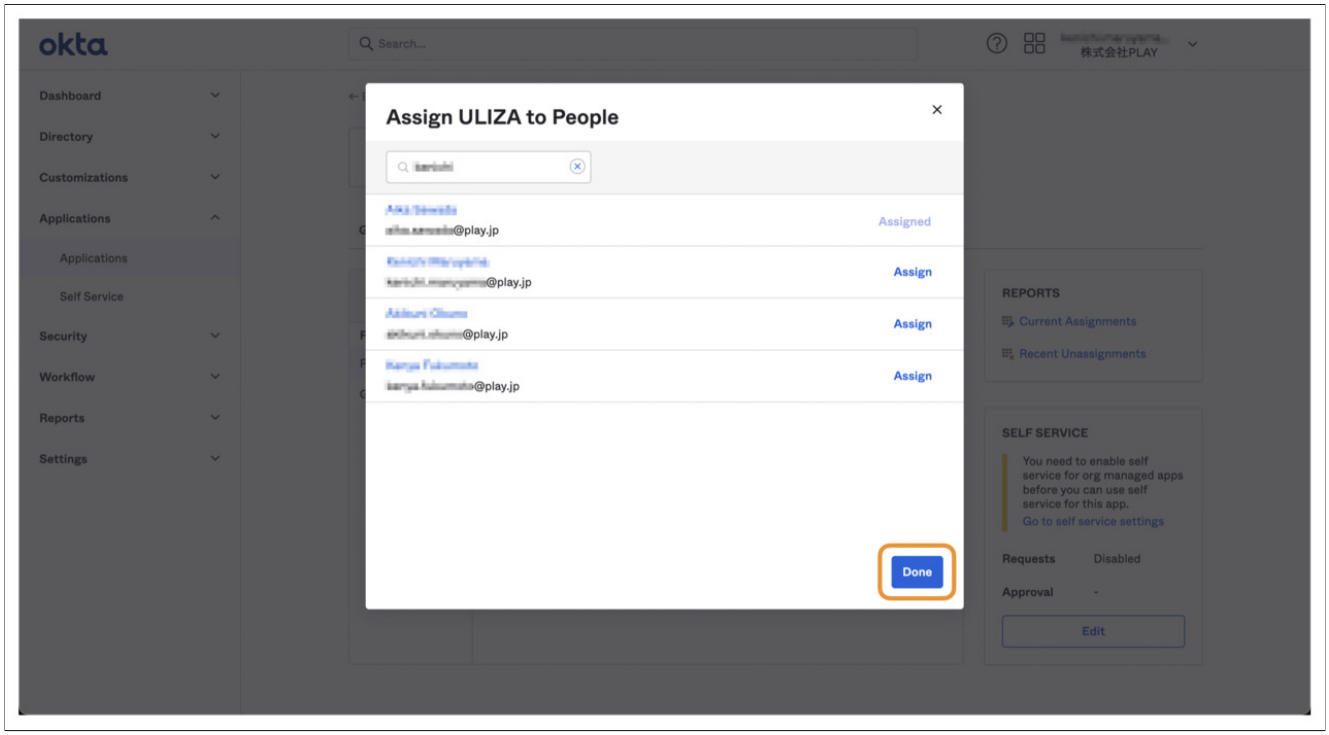
3. ULIZAへのアクセス権限を割り当てるユーザーの右にある「Assign」をクリックします。



4. 「Save and Go Back」ボタンをクリックします。



5. 引き続きユーザーの割り当てを行います。終わったら「Done」ボタンをクリックします。



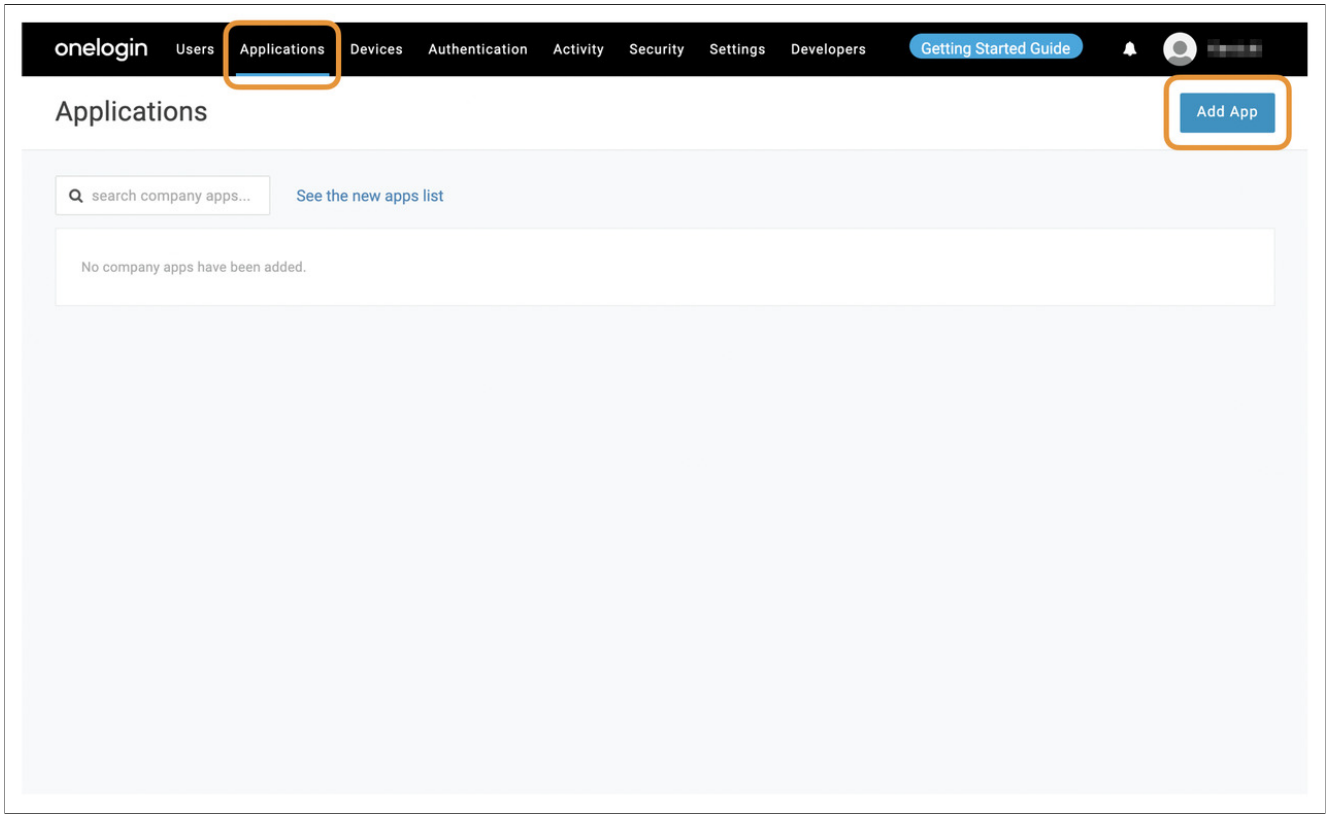
6. 割り当てられたユーザーのダッシュボードにULIZAへのリンクが表示されることを確認します。

> **注意**
>
> この時点ではULIZA側での設定が完了していないため、ULIZAへのリンクをクリックするとエラーが発生します。

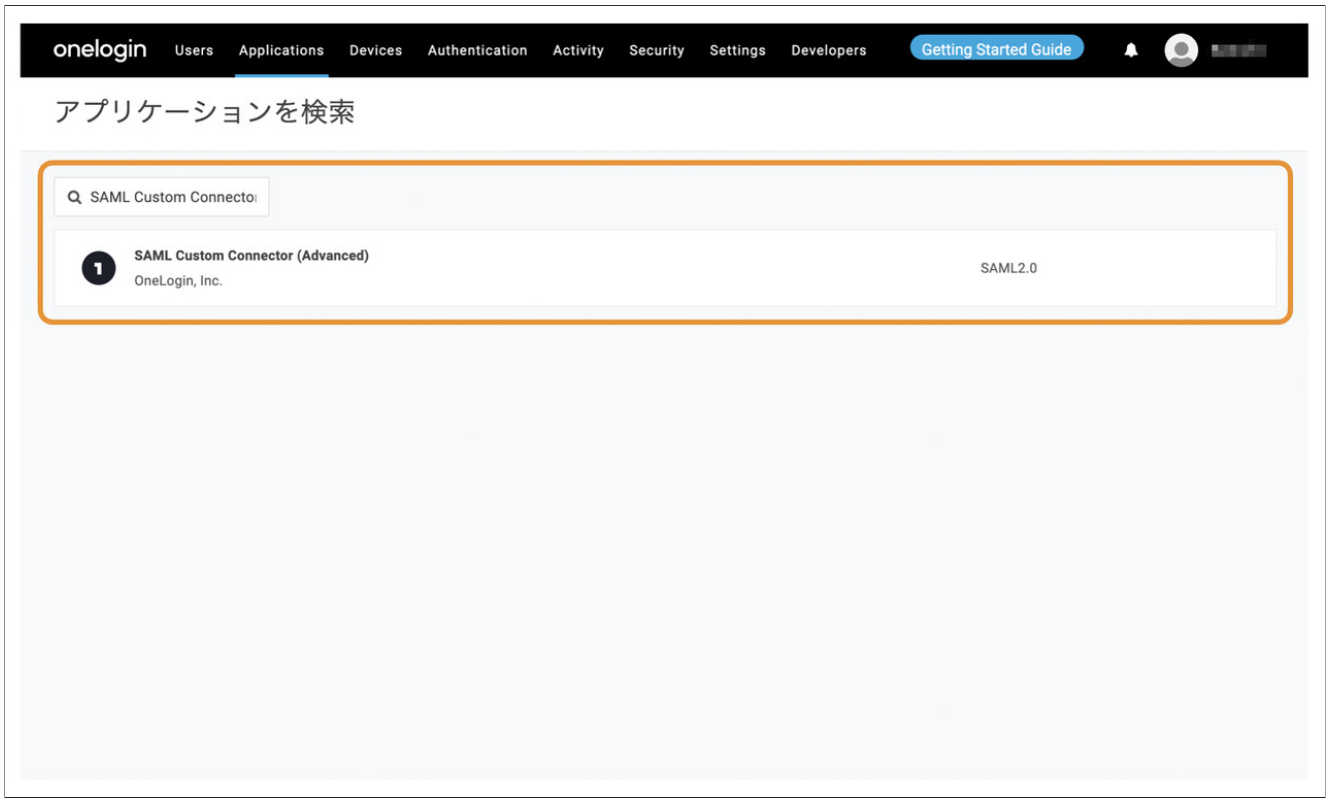
引き続きULIZA側での設定を行います。

OneLoginの場合

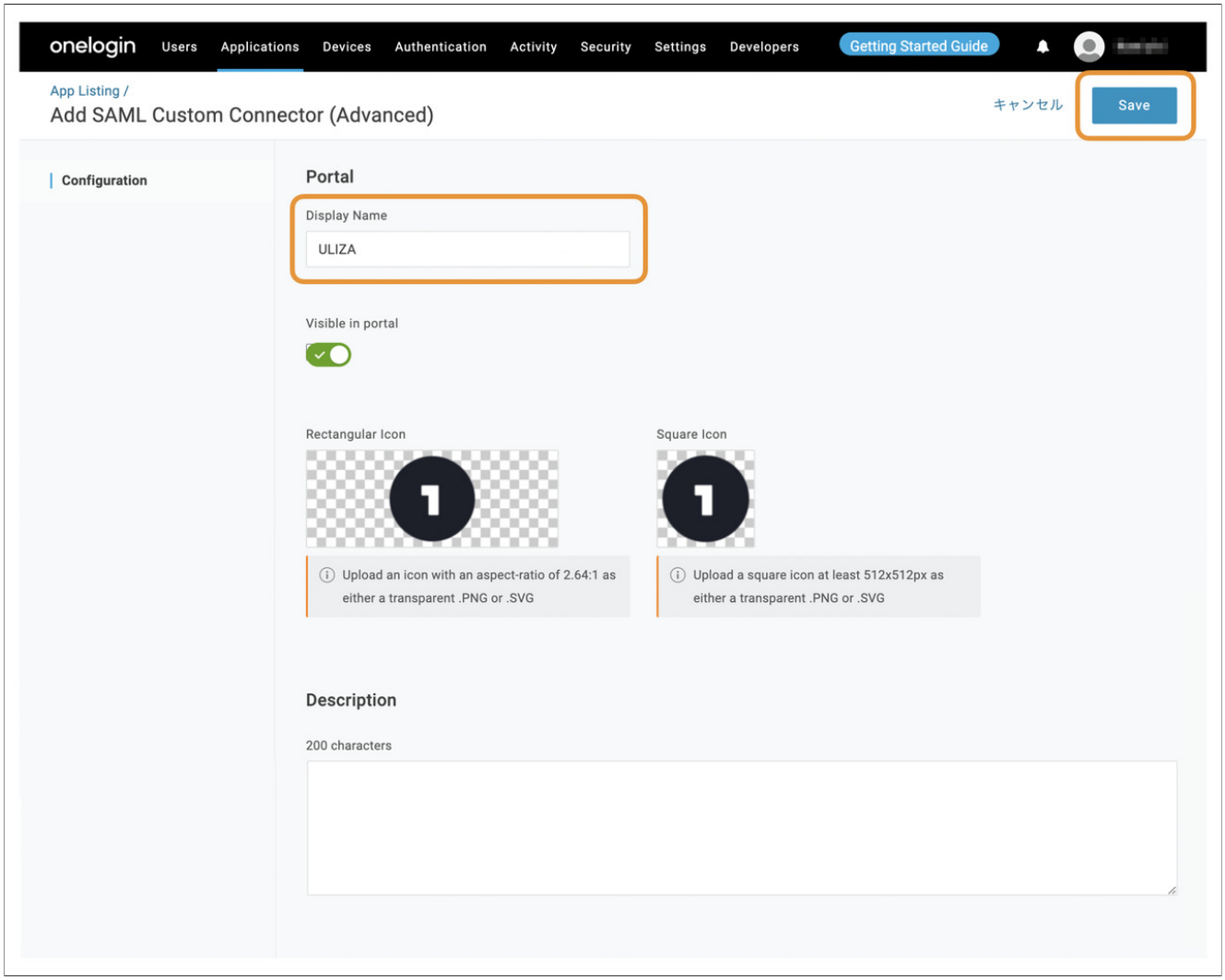
1. OneLogin管理コンソールを開きます。
2. 画面上部のメニューから「Applications」をクリックしてアプリケーション一覧画面を開きます。
3. 「Add App」ボタンをクリックします。



4. 検索ボックスに「SAML Custom Connector (Advanced)」と入力し、表示された「SAML Custom Connector (Advanced)」をクリックします。

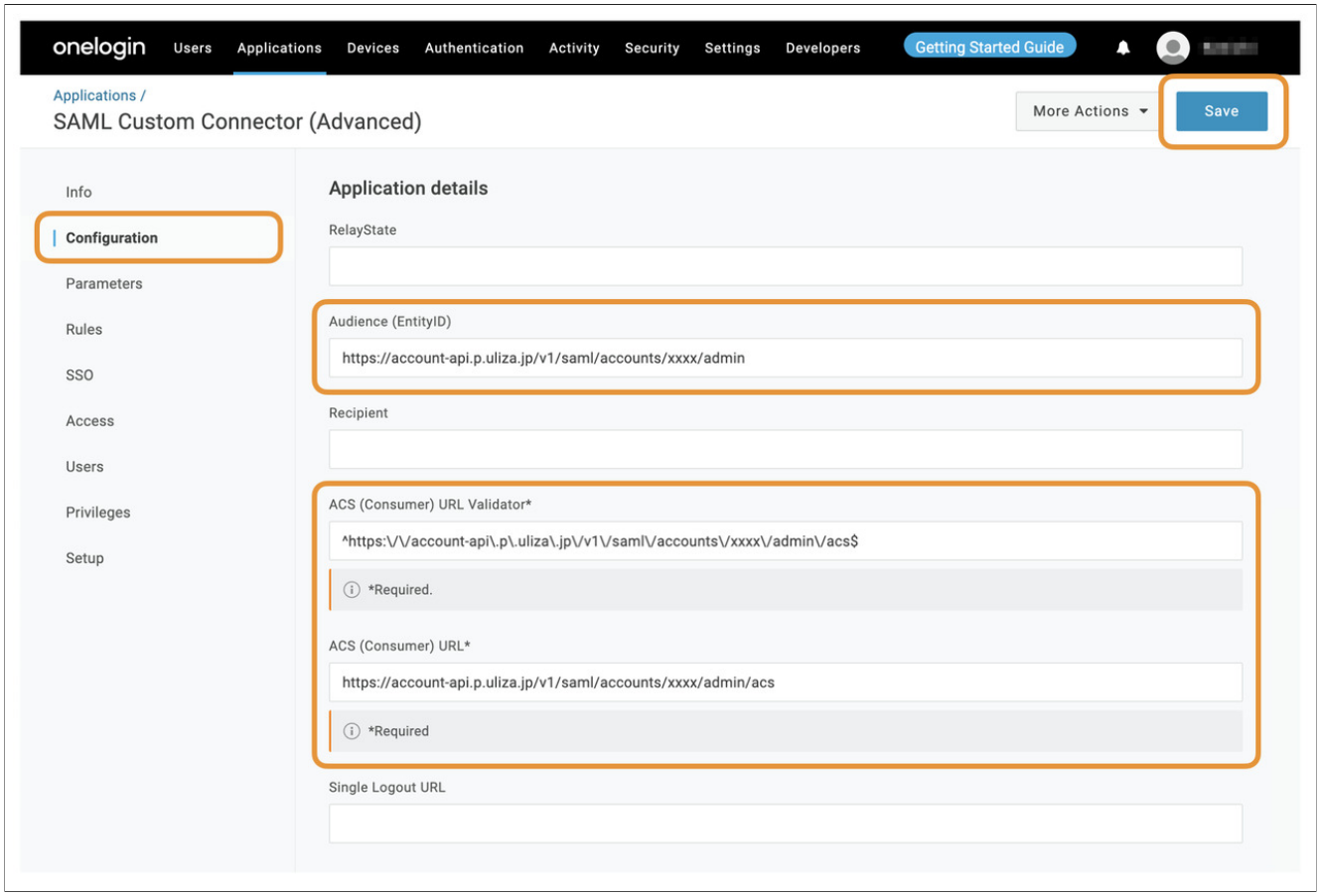


5. 「Display Name」に任意の表示名（例：「ULIZA」）を入力します。必要に応じてロゴ画像などを設定し「Save」ボタンをクリックします。

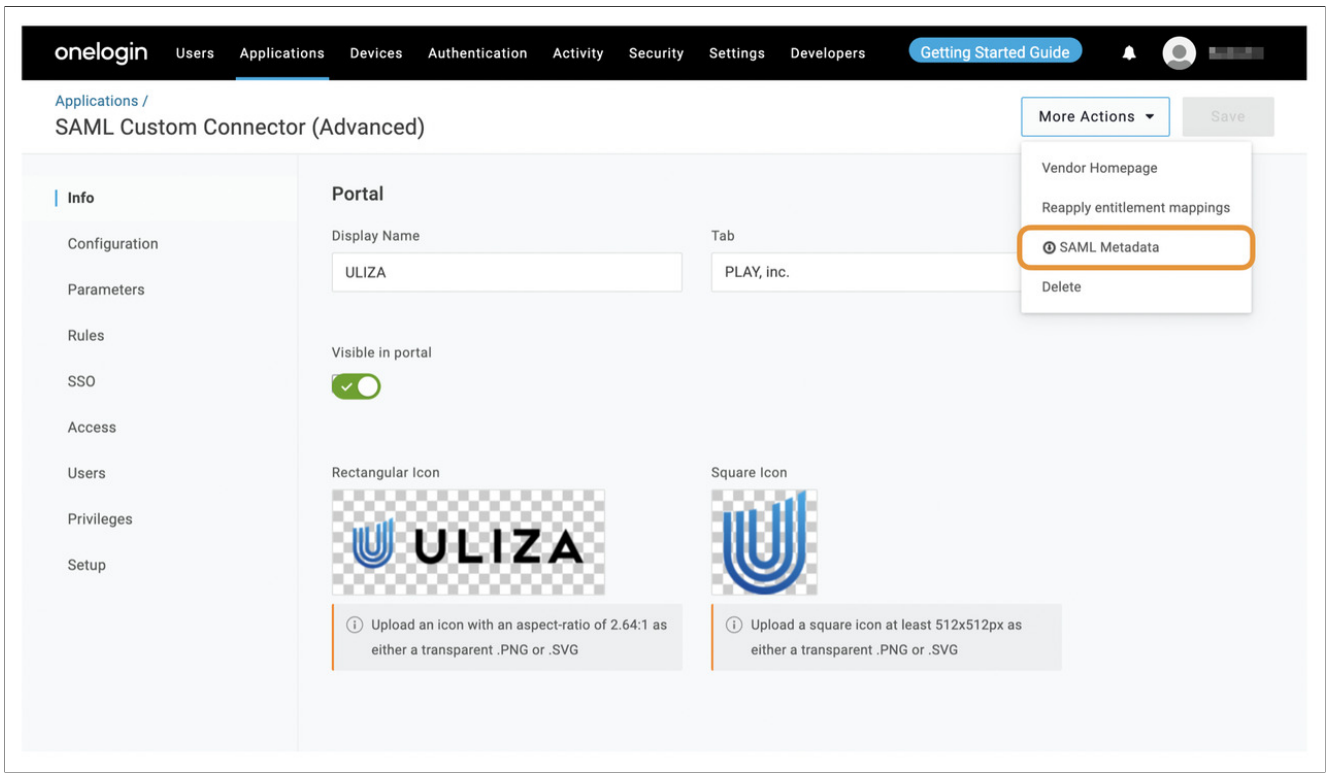


6. 左側のメニューから「Configuration」をクリックします。
7. 各項目について、以下のように設定します。特に指定のない項目については、変更する必要はありません。

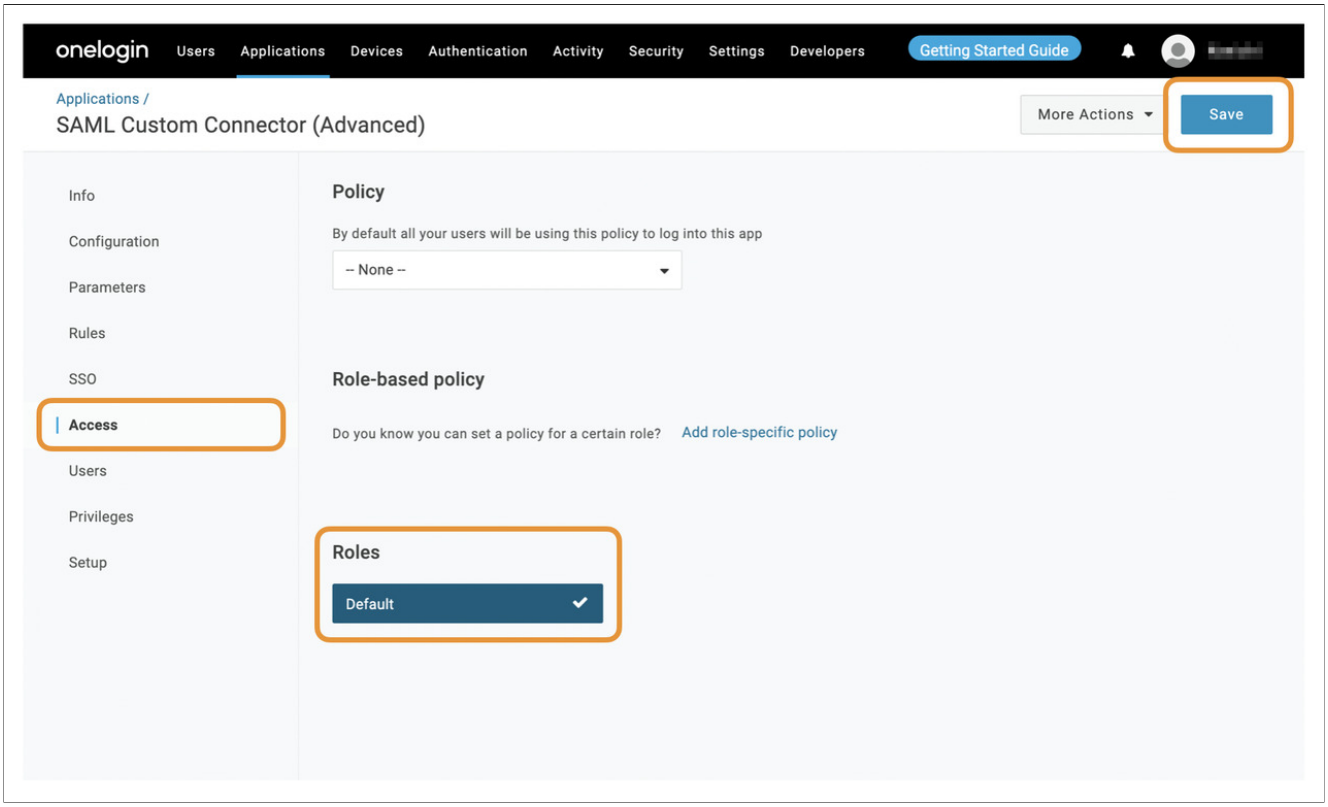
項目	設定値
RelayState	何も入力しない
Audience (EntityID)	こちらでメモしておいた「SP Entity ID」の値を入力
ACS (Consumer) URL Validator	こちらでメモしておいた「SSO URL (ACS URL)」の先頭に `^` を、末尾に `$` を連結し、`.` を `\.` に、`/` を `\/` に置換した文字列を入力
ACS (Consumer) URL	こちらでメモしておいた「SSO URL (ACS URL)」の値を入力



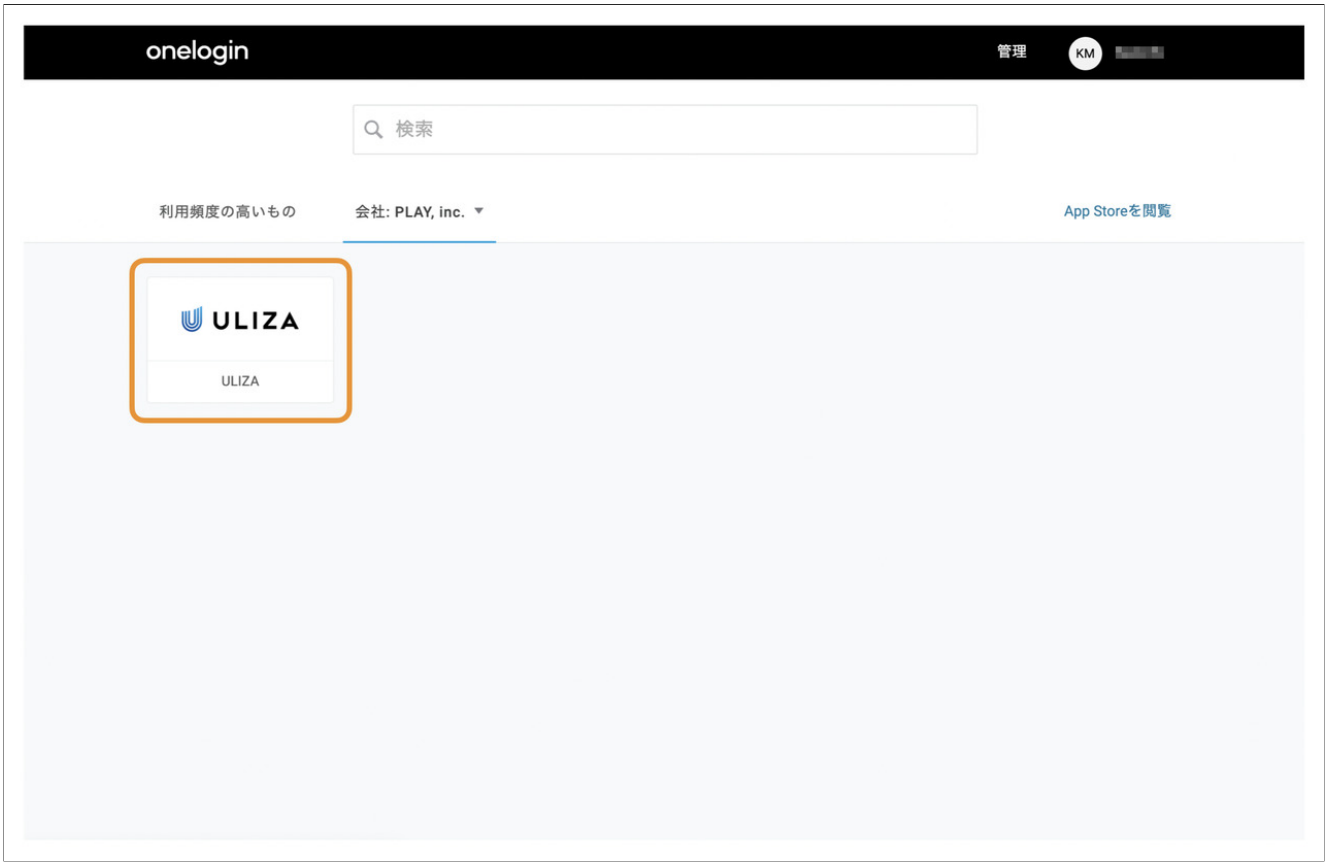
8. 「Save」ボタンをクリックします。
9. 画面右上にある「More actions」メニューから「SAML metadata」をクリックし、メタデータXMLをダウンロードしておきます。



10. 左側のメニューから「Access」をクリックします。
11. ULIZAへのアクセス権限を割り当てるロールを選択して「Save」ボタンをクリックします。



12. 割り当てられたロールを持つユーザーのポータルにULIZAへのリンクが表示されることを確認します。



> **注意**
>
> この時点ではULIZA側での設定が完了していないため、ULIZAへのリンクをクリックするとエラーが発生します。

引き続きULIZA側での設定を行います。

外部通知

本章では、ULIZAプロダクトアカウントの外部通知について説明します。

概要

外部通知はWebhookの仕組みを利用して、外部のサーバーに対して通知を送ることができる機能です。外部通知を使用することでULIZAで管理されているリソースの変更を即時に外部のサーバーに伝え、任意のアクションを行うことができます。

外部通知を設定する

サイドバーから「外部通知の設定」（Webhookの権限がある場合のみ表示されます）をクリックすると、外部通知の設定画面に遷移します。外部通知の設定画面の構成は以下の通りです。

① Webhook通知を有効にする

このチェックボックスにチェックを入れると、Webhook通知が有効になります。

② Webhook通知の送信元のIPアドレス

Webhook通知の送信元のIPアドレスが表示されます。セキュリティなどの都合でアクセス制限を行っている場合は、表示されたすべてのIPアドレスについてHTTPによる通信を受信できるように許可してください。

③ Webhook通知先URL

Webhookを通知する先のURLを入力します。半角英数記号のみ使用可能です。

④ 追加のヘッダー

「追加のヘッダーを使用する」のチェックボックスにチェックを入れると、Webhook通知のHTTPリクエストの際に任意のHTTPヘッダーを追加することができます。HTTPヘッダーを追加することで、サーバーとの認証や他のアクセスとの区別ができるようになります。ヘッダー名には半角英数字、ハイフンおよびアンダースコアのみ使用可能です。ヘッダー値には半角英数記号のみ使用可能です。

⑤ Webhook通知を行うタイミング

各項目のチェックボックスにチェックを入れると、チェックを入れた項目についてWebhook通知が行われます。

⑥ 「保存」ボタン

このボタンをクリックすると、Webhook通知の設定が保存されます。

Webhook通知の仕様

Webhook通知はHTTPのPOSTメソッドによってリクエストされます。リクエストボディはJSON形式で送信され、内容は以下の通りのオブジェクトです。

プロパティ	型	説明
login_id	string	ULIZA プロダクトアカウントのログインID
model	string	操作が行われたリソース
action	string	操作の種類
data	object	操作の情報
id	string	メッセージID
timestamp	string	Webhook を送信した日時（JST）。`YYYY-MM-DD hh:mm:ss`の形式

プロパティ`model`, `action`, `data`は通知の種類によって値が異なります。

通知の種類

通知の種類ごとにどのような条件の時に通知されるか、またリクエストボディのプロパティ`model`, `action`, `data`がどのような値になるかを説明します。

コンテンツ作成

コンテンツが作成されたときに通知されます。

プロパティ	型	説明
model	string	"content"
action	string	"create"
data.content	Content	作成されたコンテンツの情報

コンテンツエンコード完了

コンテンツのエンコードが完了したときに通知されます。

プロパティ	型	説明
model	string	"content"
action	string	"complete_encoding"
data.content	Content	エンコードが完了したコンテンツの情報

例

```json
{
  "login_id": "admin@example",
  "model": "content",
  "action": "complete_encoding",
  "data": {
    "content": {
      "name": "content-2024-11-01-11-26-00-722-063d9874",
      "title": "コンテンツタイトル",
      "description": "コンテンツの説明",
      "type": "VOD",
      "status": "PUBLIC",
      "duration": 120,
      "category_id": "dba15c50-bc60-42f3-ac16-41e47f39d041",
      "labels": [
        "224b30b9-840b-4041-832b-2b3d1fe431cd"
      ],
      "tags": [
        {
          "key": "タグキー",
          "value": "タグ値"
        }
      ],
      "created_at": "2024-11-01 11:26:00",
      "updated_at": "2024-11-01 11:28:31"
    }
  },
  "id": "0d575e78-4b42-7a1d-a93a-01e585fd5ecf",
  "timestamp": "2024-11-01 11:28:31"
}
```

コンテンツエラー発生

コンテンツのステータスがエラーになったときに通知されます。

プロパティ	型	説明
model	string	"content"
action	string	"error"
data.content	Content	エラーになったコンテンツの情報

コンテンツ更新

コンテンツが更新されたときに通知されます。

プロパティ	型	説明
model	string	"content"
action	string	"update"
data.content	Content	更新された後のコンテンツの情報
data.old_content	Content	更新される前のコンテンツの情報

コンテンツ削除

コンテンツが削除されたときに通知されます。

プロパティ	型	説明
model	string	"content"

プロパティ	型	説明
action	string	"delete"
data.content	Content	削除されたコンテンツの情報

型の種類

通知の種類で利用された型のうち、弊社が独自に定義した型について説明します。

Content型

コンテンツの情報を示します。内容は以下の通りのオブジェクトです。

プロパティ	型	説明
name	string	コンテンツ名
title	string	コンテンツタイトル
description	string	コンテンツの説明
type	string	コンテンツ種別
status	string	公開設定
duration	integer	再生時間（秒）
category_id	string	カテゴリ ID
labels	Array<string>	ラベル ID
tags	Array<object>	タグ。オブジェクトは `key` と `value` のプロパティを持ちます
created_at	string	コンテンツ登録日時
updated_at	string	コンテンツ最終更新日時

上記の表にない情報はコンテンツ情報取得APIを使用して取得してください。

その他の仕様

Webhook通知のリクエストの際、レスポンスのHTTPステータスコードが500, 502, 503, 504の場合、最大3回リトライを実行します。

Webhook通知のリクエストはリダイレクトには対応していません。

お問い合わせ

サービス利用制限の緩和や選択可能な権限の変更が必要な場合、または解決できないエラーが発生した場合は、弊社までお問い合わせください。

改版履歴

版	改版日	改版内容
1.3.0	2024/11/5	外部通知に関する記述を追加しました。
1.2.0	2022/8/30	SAML認証に関する記述を追加しました。
1.1.0	2021/2/22	チーム機能、2段階認証、およびIPアドレス制限に関する記述を追加しました。
1.0.1	2020/6/15	アカウント設定画面の改修に伴い一部の文言を修正しました。
1.0.0	2018/8/20	初版